



インターナショナルオフィス年報

第7号(2015年度)

巻頭言	1
【インターナショナルオフィス全体に関わる報告】	
香川大学国際化の基本方針と重点戦略課題	2
4 & 1 プラン（「留学生400人の受け入れ・日本人学生100人の留学派遣」に向けての取組）進捗状況	3
学術交流協定一覧	4
平成27年度香川大学グローバル人材育成特定基金実施状況	6
平成27年度インターナショナルオフィス年間行事	7
2015年度学長等表敬訪問	9
平成27年度インターナショナルウィークの報告	11
FD・SDワークショップの実施	13
平成27年度学長主催外国人留学生交歓会を開催	14
香川大学帰国留学生ネットワーク 中国支部第4回総会の開催	15
香川大学グローバル人材育成事業による英語ネイティブ教員の採用	16
民間宿舍借り上げ事業	17
大学の世界展開力強化事業について（SUIJI）	18
JICAとの連携	19
平成27年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会の実施	21
【国際研究支援センターに関わる報告】	
学術交流協定締結校との交流状況（受け入れ）	22
学術交流協定締結校との交流状況（派遣）	23
外国人研究者等の受け入れ状況	24
平成27年度国際学会・シンポジウム開催状況	26
「健康なライフスタイル」国際シンポジウムの開催	29
【留学生センターに関わる報告】	
日本語教育カリキュラム等の報告	31
相談（交流推進）事業の報告	36
全学共通科目「Study Abroad」授業の報告	39
全学共通科目「海外体験型異文化コミュニケーション」の実施	40
「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム（地域人材コース）」への参画	42
海外語学研修プログラム（韓国語）の報告	44
2015年度留学生センター留学生の受け入れ	45
各部局主催の短期受け入れプログラムにおける日本語授業の報告	47
留学生対象各種進学説明会	49
課外教育行事	51
交流活動および地域住民との連携の報告	52
就職支援プログラム	55
【資料】	
香川大学インターナショナルオフィス規則	57
香川大学インターナショナルオフィス会議規程	60
香川大学国際研究支援センター規程	62
香川大学留学生センター規程	64
インターナショナルオフィス教職員一覧	66

香川大学インターナショナルオフィス年報

第7号(2015年度)

目次

巻頭言	1
【インターナショナルオフィス全体に関わる報告】	
香川大学国際化の基本方針と重点戦略課題	2
4 & 1 プラン（「留学生400人の受け入れ・日本人学生100人の留学派遣」に向けての取組）進捗状況	3
学術交流協定一覧	4
平成27年度香川大学グローバル人材育成特定基金実施状況	6
平成27年度インターナショナルオフィス年間行事	7
2015年度学長等表敬訪問	9
平成27年度インターナショナルウィークの報告	11
FD・SD ワークショップの実施	13
平成27年度学長主催外国人留学生交歓会を開催	14
香川大学帰国留学生ネットワーク 中国支部第4回総会の開催	15
香川大学グローバル人材育成事業による英語ネイティブ教員の採用	16
民間宿舍借り上げ事業	17
大学の世界展開力強化事業について（SUIJI）	18
JICA との連携	19
平成27年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会の実施	21
【国際研究支援センターに関わる報告】	
学術交流協定締結校との交流状況（受け入れ）	22
学術交流協定締結校との交流状況（派遣）	23
外国人研究者等の受け入れ状況	24
平成27年度国際学会・シンポジウム開催状況	26
「健康なライフスタイル」国際シンポジウムの開催	29
【留学生センターに関わる報告】	
日本語教育カリキュラム等の報告	31
相談（交流推進）事業の報告	36
全学共通科目「Study Abroad」授業の報告	39
全学共通科目「海外体験型異文化コミュニケーション」の実施	40
「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム（地域人材コース）」への参画	42
海外語学研修プログラム（韓国語）の報告	44
2015年度留学生センター留学生の受け入れ	45
各部局主催の短期受け入れプログラムにおける日本語授業の報告	47
留学生対象各種進学説明会	49
課外教育行事	51
交流活動および地域住民との連携の報告	52
就職支援プログラム	55
【資料】	
香川大学インターナショナルオフィス規則	57
香川大学インターナショナルオフィス会議規程	60
香川大学国際研究支援センター規程	62
香川大学留学生センター規程	64
インターナショナルオフィス教職員一覧	66

巻 頭 言

インターナショナルオフィス長 徳 田 雅 明

平成21年4月に発足した、香川大学インターナショナルオフィス（Kagawa University International Office：KUIO）は、留学生センターと国際研究支援センターからなり、留学生の受け入れや日本人学生の派遣の推進、国際共同研究の推進、地域の国際活動の推進などに関わる業務を担当しています。

香川大学では、第3期中期目標・中期計画（平成28年度～平成33年度の6年間）において大幅な大学改革を実施し、地域に根差した学生中心の大学を目指していますが、そのキーワードのひとつが「グローバル化」です。香川大学で学ぶ学生たちが多くの国の人たちと協働できるよう、異文化理解を深め、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高める学習や環境を提供します。

平成25年にスタートし、平成35年までに、年間の留学生受け入れ400人、日本人の中長期（3か月以上）派遣者100人を目指す「4アンド1プラン」はグローバル化を象徴した目標です。平成25年度の受け入れ留学生数は243人でしたが、平成27年度には267人となり、平成28年10月1日現在で247人と順調に増加しています。また、日本人学生の海外派遣は、短期派遣も含めると平成25年度で239人（うち3か月以上17人）でしたが、平成27年度には281人（同42人）と順調に増加しつつあります。

留学生と日常に交流でき、海外に出ていく魅力を感じ、海外学習の敷居を低くできるようなキャンパス環境作りも大切です。平成26年6月に幸町キャンパスに完成したオリーブスクエア2階にオープンしたイングリッシュカフェは、留学生や日本人学生が集いネイティブ教員の協力・指導のもと自主的に英語などの外国語でのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高めることに役立っています。毎日多くの多国籍の学生たちが集っています。今後ますますキャンパスのグローバル化を推進していく予定です。

香川大学では、国際的な教育活動や研究活動、国際貢献活動やボランティア活動、地域との国際活動など、多種多様な活動を行っており、香川大学インターナショナルオフィスはそうした活動を支援し、協力して実践しています。こうした国際的な活動を学外の方々に発信し、知っていただくことは非常に重要です。本年報は、我々が関連する活動全般についてとりまとめて毎年発刊しています。今回は平成27年度（2015年度）の活動をご紹介します。是非ご一読いただきご理解いただくとともに、ご意見やご助言を頂戴できれば幸いです。

末筆ながら、日頃より我々の活動にご協力いただいております、団体・個人各位に厚く御礼申し上げます。今後とも引き続きご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

香川大学 国際化の基本方針と重点戦略課題

～地域との連携を基盤に、地域に根ざした国際化を推進～ 平成23年1月31日役員会審議承認

基本方針

○地域に根ざした国際化

- 社会・経済のグローバル化や地球規模の課題に対応し、アジア・太平洋諸国等をはじめ、広く国際社会に貢献できる分野を重点に、海外の大学・研究機関等との学術・研究交流を促進する。
- 大学の持つ国際化に関する知識・経験やネットワークを地域と共有し、地域の行政、企業、住民等の国際化へのニーズに応える。
- 人と人とのつながりを基本に、地域の様々な国際交流活動との連携を深め、地域の国際化に貢献する。

○国際的通用性を備えた人材の育成

- 世界で活躍できる国際性豊かなグローバル人材を育成するとともに、アジア・太平洋諸国等から優れた留学生・研究者を受け入れ、相互の人材育成・交流を促す、双方向のグローバル教育を実践する。
- 世界を舞台とする社会貢献やキャリアデザインにつながるグローバルな学生交流の機会を提供する「世界の若者に開かれた大学」を目指す。
- 海外留学や国際ボランティアなど、国際的な視野を拡げ、経験を豊かにする学生の活動を積極的に支援する。

○国際化のための環境整備

- 海外の大学等との学生・研究者の相互派遣の拡大に向け、海外交流拠点のネットワーク整備を進めるとともに、教職員や学生による国際的な研究・交流活動を積極的に支援する。
- 国際的な学術交流の促進に向け、研究環境のより一層の充実・強化を図るとともに、留学生の生活面を含めた教育環境の整備を地域の支援・協力を得ながら進める。
- 多様な言語やライフスタイルを持つ海外からの留学生・研究者と本学学生・教職員との自由闊達な交流を促す「キャンパスの国際化」を推進する。



重点戦略課題

- 海外の大学・研究機関等との間で重点化すべき学術・研究交流分野の抽出並びに情報発信
 - ・各学部における研究成果や研究テーマの整理・データベース化、国際的な学術交流ニーズ、国際社会への貢献可能性などを踏まえ、重点分野を抽出し、ターゲットとすべき大学・研究者等に向けて情報発信
- 地域を交えた国際交流活動などによる地域の国際化への貢献
 - ・地域の自治体や企業等の交流ニーズを踏まえ、協定大学をはじめ、相互交流を促進する相手国・大学等を重点化するとともに、地域を交えた国際交流活動などを通じ、地域の国際化に貢献
- グローバル人材の育成に向けたプログラム化
 - ①グローバル人材に求められる能力要素を踏まえて教育プログラムを見直し、各学部・大学院カリキュラムに反映
(例：英語による教養・専門科目、ディベートなどの必修化、各年次・卒業までに到達する語学力の目標水準を能力に応じて設定し、着実に達成)
 - ②協定大学とのネットワークを活かした多言語プログラムや多様な留学コースを設置し、単位化するなどにより、学生の国際的視野を早期に拡大
 - ③アジア・太平洋諸国等から優秀な留学生や研究者を受け入れ、本学の学生との一体的な教育や、研究者間相互の学術交流を促す特色あるコースを設置し、大学のブランド化を促進
- 海外交流拠点のネットワークを効果的に整備するため、協定大学を重点対象として、交流内容や諸条件を打診・調整
- 留学生・外国人研究者のニーズや視点に立った支援の仕組みを整備するとともに、「キャンパスの国際化」を実現
 - ①留学生・外国人研究者のキャリア形成と地域社会の国際化ニーズをマッチングする仕組みを、地域の行政や企業等の支援・協力を得ながら構築
 - ②多言語による情報提供のシステム化や、美しく安全で快適なキャンパスを目指した点検・整備

4 & 1 プラン（「留学生400人の受け入れ・日本人学生100人の留学派遣」に向けての取組）進捗状況の報告

インターナショナルオフィス ロン リム

2013年度に、学長が提唱した「4 & 1」プランは、10年後、留学生400人の受け入れと日本人学生100人の派遣を目的とする取組である。実現への道として、プロジェクトチームを立ち上げて、様々な課題と解決法を検討することにした。

初年度の2013年に、6回のプロジェクトチームの会議を開催した。2年目の2014年にも、同じく6回のプロジェクトチームの会議を開催した。引き続き、3年目の2015年に、2回の会議を開催した。

それぞれの会議の日程、会場および検討した議題は下記の通りである。

○第13回 4 & 1 プロジェクトチーム会議

日時 平成27年6月3日(水) 8:30～9:30

場所 研究交流棟5階 研究者交流スペース

議題

1. 留学生を増やすための方策について

○第14回 4 & 1 プロジェクトチーム会議

日時 平成27年6月29日(月) 15:00～

場所 本部管理棟3階 第一会議室

議題

1. 留学生を増やすための方策について

- 1) 4Ps Modelから見た留学生受け入れのプロセス（案）

- 2) 入学に関する問い合わせ件数

- 3) 各学部の取組について

参考) 外国人留学生（正規生）の推移

学術交流協定一覧

(2016年12月1日現在)

●大学間協定〔18カ国・地域、55機関〕

機関名	国・地域名	大学間協定締結年月日	実施細則等締結部局
カセサート大学	タイ王国	1988年8月25日 再締結(99年1月20日)	農学部、大学院農学研究科
チェンマイ大学	タイ王国	1990年4月24日	農学部、大学院農学研究科
			工学部、大学院工学研究科
			教育学部
			医学部、大学院医学系研究科
ルイビル大学	アメリカ合衆国	1997年9月2日	医学部看護学科、大学院医学系研究科看護学専攻
サボア・モンブラン大学	フランス共和国	2000年3月24日	法学部、大学院法学研究科
南京農業大学	中華人民共和国	2001年7月4日	工学部、大学院工学研究科
ミュンヘン工科大学	ドイツ連邦共和国	2002年2月13日	農学部、大学院農学研究科
メチヨー大学	タイ王国	2002年3月7日 再締結(11年11月22日)	工学部、大学院工学研究科
国立政治大学	台湾	2002年3月19日	農学部、大学院農学研究科
ライオンマイン大学	ドイツ連邦共和国	2002年9月23日	法学部、大学院法学研究科
コロラド州立大学	アメリカ合衆国	2002年10月8日 再締結(12年10月1日)	経済学部、大学院経済学研究科
韓国海洋大学	大韓民国	2002年12月18日	教育学部
上海大学	中華人民共和国	2003年9月1日 再締結(14年1月3日)	工学部、大学院工学研究科
ハルビン工程大学	中華人民共和国	2005年2月23日	経済学部、大学院経済学研究科
大邱大学	大韓民国	2005年5月17日	工学部、大学院工学研究科
カデイス大学	スベイン	2006年1月31日	農学部、大学院農学研究科
中国海洋大学	中華人民共和国	2006年12月19日	法学部、大学院法学研究科
アアルト大学化学技術学部	フィンランド共和国	2007年3月13日	農学部、大学院農学研究科
真理大学	台湾	2007年6月11日	経済学部
西北大学	中華人民共和国	2007年10月17日	経済学部
南ボヘミア大学	チェコ共和国	2008年11月12日 再締結(13年11月15日)	教育学部
ハンバット大学	大韓民国	2008年11月14日	工学部、大学院工学研究科
電子科技大学	中華人民共和国	2009年6月1日	工学部、大学院工学研究科
天津農学院	中華人民共和国	2009年6月4日	農学部、大学院農学研究科
フランシュ・コンテ大学	フランス共和国	2009年7月24日	工学部、大学院工学研究科
ブルネイ・ダルサラーム大学	ブルネイ・ダルサラーム国	2009年11月8日	医学部
チュラロンコン大学	タイ王国	2010年2月1日	農学部
シュレバングラ農科大学	バングラデシュ人民共和国	2010年5月10日	農学部、大学院農学研究科
コンピエーネ技術大学	フランス共和国	2010年7月8日	工学部、大学院工学研究科
トリブバン大学	ネパール連邦民主共和国	2010年11月2日	工学部
ムルシヤ大学	スベイン	2010年12月9日	教育学部
バッタンバン大学	カンボジア王国	2010年12月9日	農学部、大学院農学研究科
王立農業大学	カンボジア王国	2010年12月13日 再締結(15年11月19日)	農学部、大学院農学研究科
カリフォルニア大学デービス校 カリフォルニア大学理事會	アメリカ合衆国	2011年2月1日	農学部
誠信女子大学	大韓民国	2011年2月21日	教育学部
セントピーターズバーグ大学	アメリカ合衆国	2011年2月28日	教育学部
リモージュ大学	フランス共和国	2011年3月14日	工学部、大学院工学研究科
北京外国語大学	中華人民共和国	2011年3月29日	教育学部
長春理工大学	中華人民共和国	2012年1月16日	工学部、大学院工学研究科
浙江工商大学	中華人民共和国	2012年5月7日	農学部、大学院農学研究科
天津理工大学	中華人民共和国	2012年10月25日	工学部、大学院工学研究科
カリフォルニア州立大学フラトン校	アメリカ合衆国	2012年11月9日	経済学部
パリ電子電気工学技術高等学院	フランス共和国	2012年11月19日	工学部、大学院工学研究科
ガジャマダ大学	インドネシア共和国	2013年1月31日	農学部
ディボネゴロ大学	インドネシア共和国	2013年2月4日	農学部、大学院農学研究科
州立ロンドリーナ大学	ブラジル連邦共和国	2013年3月11日	農学部、大学院農学研究科
国立嘉義大学	台湾	2013年4月25日	工学部
高等機械大学院大学	フランス共和国	2013年5月24日	工学部、大学院工学研究科
ガイゼンハイム大学	ドイツ連邦共和国	2013年7月15日	農学部、大学院農学研究科
第四軍医大学	中華人民共和国	2014年5月27日	医学部
ハノイ工科医学	ベトナム社会主義共和国	2015年9月24日	農学部
アサンブション大学	タイ王国	2015年11月19日	農学部
ハルムスタッド大学	スウェーデン王国	2015年12月15日	工学部
聖公会大学校	大韓民国	2016年5月25日	経済学部
東西大学校	大韓民国	2016年5月26日	経済学部
シラパコーン大学	タイ王国	2016年6月15日	農学部

●部局間協定〔14カ国・地域、26機関〕

部局名	機関名	国・地域名	締結年月日
教育学部	清州大学人文学部	大韓民国	2001年7月9日
教育学部	クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学	ニュージーランド	2002年1月23日 再締結(11年12月1日)
教育学部、大学院教育学研究科	江西師範大学国際教育学院	中華人民共和国	2005年2月25日 再締結(14年9月2日)
教育学部	ガウハチ大学	インド	2015年8月3日
教育学部	インド工科大学グワハチ校	インド	2015年8月5日
教育学部	ノースイースタンヒル大学地理学科	インド	2015年10月23日
法学部、大学院法学研究科	上海社会科学院法学研究所	中華人民共和国	1996年9月2日
法学部、大学院法学研究科	華東政法法律大学	中華人民共和国	1996年9月5日
医学部	カルガリ大学医学部	カナダ	1989年7月31日
医学部	中国医科大学	中華人民共和国	1997年8月28日
医学部	河北医科大学	中華人民共和国	2001年11月27日
医学部	ブルネイ・ダルサラーム国保健省	ブルネイ・ダルサラーム国	2009年12月5日
工学部、大学院工学研究科	ボン＝ライン＝ズィーク大学	ドイツ連邦共和国	2002年2月12日 再締結(13年5月19日)
工学部、大学院工学研究科	国立高等精密機械大学院大学	フランス共和国	2009年1月28日
工学部、大学院工学研究科	トレド大学	アメリカ合衆国	2009年3月30日 再締結(12年11月8日)
工学部、大学院工学研究科	ラップランド応用科学大学	フィンランド共和国	2009年6月1日 再締結(14年7月28日)
工学部、大学院工学研究科	漢陽大学工学部及びブレイン・コリア21機械工学科	大韓民国	2010年4月14日 再締結(16年3月17日)
工学部、大学院工学研究科	北京師範大学化学学院	中華人民共和国	2012年3月31日
工学部、大学院工学研究科	北京理工大学生命学院	中華人民共和国	2012年10月24日
工学部、大学院工学研究科	アルピュン山大学	フランス共和国	2016年4月1日
農学部、大学院農学研究科	ダッカ大学生物科学部	バングラデシュ人民共和国	1998年12月15日
農学部、大学院農学研究科	ミシガン州立大学農学・自然資源学部	アメリカ合衆国	1999年3月22日
農学部、大学院農学研究科	ボゴール農業大学農学部、大学院研究科	インドネシア共和国	2000年6月13日
農学部、大学院農学研究科	西オーストラリア大学自然科学・農学部	オーストラリア連邦	2002年3月28日
農学部、大学院農学研究科	ブルゴーニュ大学アグロスツップ校	フランス共和国	2010年6月1日
大学院地域マネジメント研究科	ナポリフェデリコ2世大学・農学部	イタリア共和国	2015年3月13日

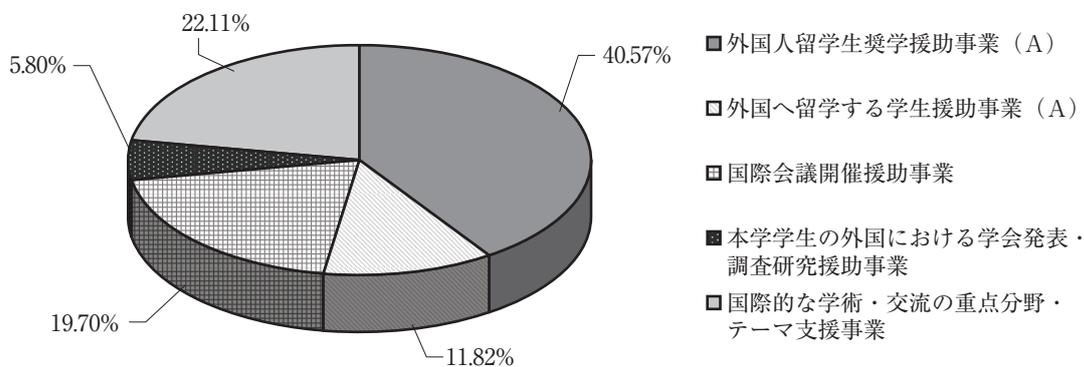
●連携協力協定〔5件〕

協定	連携協力機関	締結年月日
国際メカトロニクス研究教育機構に関する一般協定	サポア大学、国立高等精密機械大学院大学、フランシユ・コンテ大学、電気通信大学、東京電機大学、首都大学東京、産業技術大学院大学、高等機械大学院大学、リモージュ大学、コンピエーネ技術大学、三重大学	2009年1月30日
地球ディベロプメントサイエンス国際コンソーシアムの設立に関する一般協定	GRAM・バングラ	2010年2月16日
熱帯農業に関するSUIJI (Six University Initiative Japan Indonesia) コンソーシアム協定	ガジャマダ大学、ボゴール農業大学、ハサヌディン大学、愛媛大学、高知大学	2011年3月16日
国際交流訪問者プログラムに関する覚書	フロリダ・バレンシア大学地区理事会及び大学生協中国四国事業連合	2015年4月24日
JICA 四国と国立大学法人香川大学との連携協力の推進に関する覚書	JICA 四国	2016年3月16日

平成 27 年度香川大学グローバル人材育成特定基金 実施状況

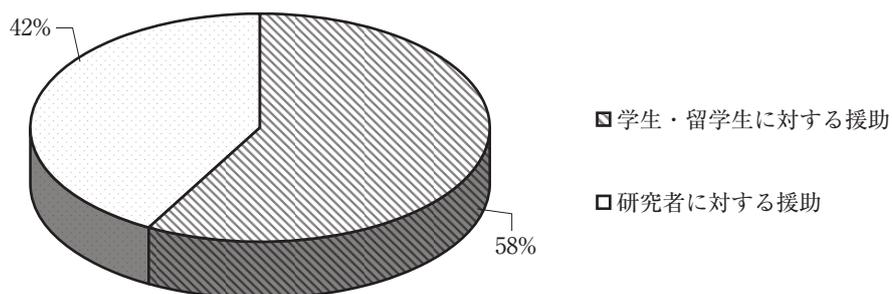
各事業実施割合

事業名	実施額 (千円)	事業全体に占める割合
外国人留学生奨学援助事業 (A)	1,750	40.57%
外国へ留学する学生援助事業 (A)	510	11.82%
国際会議開催援助事業	850	19.70%
本学学生の外国における学会発表・調査研究援助事業	250	5.80%
国際的な学術・交流の重点分野・テーマ支援事業	954	22.11%
計	4,314	100.00%



目的別実施割合

事業	実施額 (千円)	事業全体に占める割合
学生・留学生に対する援助	2,510	58%
研究者に対する援助	1,804	42%
計	4,314	100%



平成 27 年度インターナショナルオフィス年間行事

月 日	行 事
4月5日(日)	春期新入留学生ガイダンス（留学生会館・花園寮含む）・歓迎会（情報交換会）
4月22日(水)	海外留学フェア
4月24日(金)	本学とフロリダ・バレンシア大学地区理事会及び大学生協中国四国事業連合との間のJ国際交流訪問者プログラムに関する覚書
5月25日(月)	香川県留学生等国際交流連絡協議会運営委員会
5月26日(火)	チェンマイ大学看護学科学生との交流会
5月30日(土)	第1回課外教育行事
6月14日(日)	Healthy Lifestyle Symposium 2015
6月17日(水)	百十四銀行セミナー
6月26日(金)	香川県留学生等国際交流連絡協議会総会
6月27日(土)	花園寮交流会
7月4日(土)	ホームビジット第1日目
7月11日(土)	ホームビジット第2日目
7月29日(水)	春期留学生センタープログラム修了式
8月3日(月)	香川大学教育学部とガウハチ大学地理学科との学術交流協定書締結
8月5日(水)	夏季 海外渡航者向け 危機管理セミナー
8月5日(水)	香川大学教育学部とインド工科大学グワハチ校との学術交流協定書締結
8月7日(金)	外国人留学生等の入国・在留に関する実務懇談会
8月7日(金)	FD・SD ワークショップ 「海外渡航者メンタルヘルス」
8月8日(土)	帰国留学生ネットワーク中国支部第4回総会
9月12日(土)～14日(月)	第5回 SUIJI セミナー
9月13日(日)	熱帯農業に関する SUIJI (Six-University Initiative Japan Indonesia) コンソーシアム協定書（再締結）
9月24日(木)	香川大学とハノイ工科大学との間の学術交流協定書、香川大学とハノイ工科大学との学術交流協定書に基づく学生の交流に関する実施細則、香川大学農学部及び大学院農学研究科とハノイ工科大学生物・食品技術学部及び大学院研究科との学術交流協定に関する実施細則締結
9月28日(月)	チューター・サポーターガイダンス
10月3日(土)	秋期新入留学生ガイダンス、情報交換会
10月5日(月)	秋期日本語教育コース及びさぬきプログラム開講式
10月23日(金)	香川大学教育学部とノースイースタンヒル大学地理学科との学術交流協定書締結
10月30日(金)	留学生就職活動準備セミナー
10月31日(土)・11月1日(日)	日本留学フェア（ベトナム）
11月19日(木)	香川大学とアサンプション大学との間の学術交流協定書、香川大学とアサンプション大学との学術交流協定書に基づく学生の交流に関する実施細則、香川大学農学部及び大学院農学研究科とアサンプション大学生命工学部との学術交流協定に関する実施細則締結
11月20日(金)	留学生採用支援セミナー&交流会
11月28日(土)	第2回課外教育行事
12月1日(火)～25日(金)	インターナショナルウィーク
12月2日(水)	留学 Roundtable
12月5日(土)	ホームビジット第1日目
12月8日(火)	学長主催外国人留学生交歓会
12月9日(水)	海外留学講演会
12月10日(木)	留学生活用セミナー&交流会
12月12日(土)	ホームビジット第2日目

月 日	行 事
12月15日(火)	香川大学とハルムスタッド大学との学術交流協定、香川大学とハルムスタッド大学との学生交流プログラムに関する実施細則、香川大学工学部及び大学院工学研究科とのインターンシッププログラムに関する協定締結
12月16日(水)	ホームビジット報告会
12月17日(木)・18日(金)	国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会（当番校）
1月15日(金)	企業見学会
1月27日(水)	第12回外国人留学生作文コンテスト表彰式および留学生等による活動報告会
2月10日(水)	秋期さぬきプログラム修了式／外国人留学生及びチューター等意見交換・反省会
2月17日(火)	FD・SD ワークショップ
2月17日(火)	本学農学部及び大学院農学研究科と嘉義大学生命科学院との学術交流協定に関する実施細則
2月18日(木)	冬季 海外渡航者向け 危機管理セミナー

2015 年度学長等表敬訪問

- 6月2日 コロラド州立大学（アメリカ）
日本語を学習している学生7名及び教員1名が、本学インターナショナルオフィス長を表敬訪問
約5週間、教育学部の実施する「アジア・アメリカ異文化交流短期受入プログラム2015」に参加。
- 7月9日 チェンマイ大学（タイ）、クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学（ニュージーランド）
チェンマイ大学の学生8名及び教員1名とクライストチャーチ・ポリテクニク工科大学の学生1名が、本学インターナショナルオフィス長を表敬訪問
約5週間、教育学部が実施する「アジア・アメリカ異文化交流短期受入プログラム2015」に参加。
- 7月14日 日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）の招へい者
独立行政法人科学技術振興機構の「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」に採択され、招へいされた外国人学生等9名が本学インターナショナルオフィス長を表敬訪問
カセサート大学、チュラロンコン大学、シラパコーン大学、アサンプション大学（タイ）、ハノイ工科大学、ベトナム国家大学ホーチミン市校工科大学（ベトナム）、浙江工商大学（中国）、南洋理工学院（シンガポール）で主に食品科学を専攻している学生、研究員、講師が、約21日間、農学部の実施するプログラムに参加し、日本の食品科学技術等について学ぶ。
- 8月5日 テキサス A&M 大学コマース校（アメリカ）
テキサス A&M 大学コマース校グローバルプログラム事務局長 Jacques L.Fuqua, Jr 氏が、本学インターナショナルオフィス長を表敬訪問
テキサス A&M 大学コマース校は、1889年に創立された米国テキサス州にある州立大学で、農学や経済、教育分野等を専門領域としている。
- 8月18日 農学部ショートステイ学生
アメリカ、インドネシア、カンボジア、タイ、トルコ、フィリピン、ブラジル、ベトナム、メキシコ、中国の協定校等に在籍し、主に農学分野を専攻している外国人学生28名が、本学インターナショナルオフィス長を表敬訪問
農学部の実施する「食品の安全・機能解析教育に関する東南アジア等の大学間体験学習型プログラム」に参加。

11月2日 天津農学院（中国）

香川大学帰国留学生ネットワーク中国支部長の崔晶天津農学院教授が、徳田インターナショナルオフィス長を表敬訪問

8月、天津で開催された同支部総会が、将来の学術交流の進展に実り多いものとなったのは、崔教授の尽力によるもの。

11月24日 国立嘉義大学（台湾）

教員8名、学生4名が、長尾学長を表敬訪問

嘉義大学とは2013年の交流協定締結以前より、毎年ワークショップを開催し交流を続けており、今回が4回目。

2月10日 チェンマイ大学（タイ）

副学長・農産学部長の Dr.Charin Techapun 氏、農産学部副学部長の Dr.Ampin Kuntiya 氏及び農産学部国際担当の Dr.Noppol Leksawasdi 氏が本学インターナショナルオフィス長を表敬訪問

チェンマイ大学は、1990年に本学と学術交流協定を締結しており、教育、研究や医療等の分野で、最も活発に交流を続けている海外の大学のひとつ。

平成 27 年度香川大学インターナショナルウィークの報告

インターナショナルオフィス 正 楽 藍

平成27年度のインターナショナルウィークは、例年度よりも実施期間を大幅に延ばして、約1か月間となった。本ウィークは、香川大学の国際化を推進することを目的として、日本人学生の海外留学に対する意識を高めることをねらいとしている。日本人留学生や本学の外国人留学生の留学経験を聴いたり、学外の方をお招きしての講演会を開催したりすることによって、日本人学生等の海外や留学に対する心の壁を少しでも取り除き、さらに、本学の海外留学支援制度の周知徹底をはかるためのものである。

○ 留学Roundtable

12月2日(水)、海外留学(研修)を経験した日本人学生5名と外国人留学生3名によるパネルディスカッションを実施した。日本人学生と外国人留学生双方の留学の動機や実際に留学しての考え、留学への期待と現実等、普段はなかなか聴くことのできない留学ストーリーが語られた。

○ 海外留学講演会

12月9日(水)、百十四銀行の市場国際部から佐熊謙一氏をお招きして、「海外留学講演会」を開催した。佐熊氏は、大学卒業後に百十四銀行へ入行され、県内外の支店へ配属された後、市場国際部へ異動された。異動の1年後に日本貿易振興機構へ出向され、インドのムンバイ事務所へ赴任された。講演会では、銀行員としての業務のなかでの海外とのつながりやインドでの担当業務の他、海外(インド)から見た日本のイメージや海外で生活することの楽しさについても講演いただいた。講演会へ参加した学生は、一般的にイメージする銀行や銀行員の業務と佐熊氏の実際の業務とを比較したり、将来、海外とつながりのある仕事を職業とすることを具体的に思い描いたりした。佐熊氏からは最後に日本人学生に対して、どんなことを仕事とするかに関わらず、日本(日本人)と海外(外国人)との関係はますます緊密になって来ること、その状況下において、大学生が今何をすべきか、何を考えるべきかのメッセージもいただいた。

○ ホームビジット報告会

香川県内に住む外国人留学生と地域の日本人との交流や日本文化の理解を目的としたホームビジット事業を年2回実施している。これは、香川県留学生等国際交流連絡協議会が実施母体となっている事業であり、本学が事務局を務める。本事業は平成24年度から実施しており、平成27年度で4年目となる。平成27年度の報告会が12月16日(水)、本学オリーブスクエアにて開催された。当日は、ホームビジット参加留学生やホストファミリー、本学教職員をはじめ、そのほかの外国人留学生や県関係者等も参加し、参加留学生による体験談の発表や意見交換、茶話会等を通じて情報共有が行われた。

○ パネル展示

本学図書館中央館2階ロビーに、日本人留学生が作成した留学ポスターが展示された。本学の留

学プログラムごとに、各プログラム参加者が写真やイラスト、体験談等を記載し、現地での活動の様子をほかの学生へ伝えた。

日本人学生によるポスターに加えて、外国人留学生が作成したパネルを展示した。テーマは出身国のスイーツで、台湾、ミャンマー、メキシコ、タイ、ブルネイ・ダルサラームの紹介パネルが展示された。

○ 他部局の留学ガイダンス

12月10日(木)、農学部国際交流委員会主催の「海外留学説明会」において、インターナショナルオフィス教員が農学部及び農学研究科の学生が参加できる海外留学プログラム、及び海外留学奨学金についての説明を行った。

○ 平成27年度学長主催外国人留学生交歓会を開催

12月8日(火)、外国人留学生、教職員及びチューター等日本人学生と地域や国際交流団体の方々との親睦を深めるため、学長主催による外国人留学生交歓会をホテルパールガーデンにおいて開催し、約300名が参加した。

FD・SD ワークショップの実施

平成27年8月7日(金)、講師に保健同人社EAPコンサルタント・臨床心理士の秦泉寺 晶子氏をお招きし、海外へ渡航する学生の指導教員及び事務担当者を対象とした「留学する学生に対するメンタルヘルスについて」を開催した。筧オフィス長の開会挨拶の後、秦泉寺氏より、ストレスのメカニズムや原因、留学生の不調の見極めやその対応方法などについてご講演いただいた。

講演に引き続いての質疑応答では、具体的な事例についての対応方法や、加入保険サポートとの連携等について、活発な意見交換がなされた。

平成 27 年度学長主催外国人留学生交歓会を開催

平成27年12月8日(火)、外国人留学生、教職員及びチューター等日本人学生と地域や国際交流団体の方々との親睦を深めるため、学長主催による外国人留学生交歓会をホテルパールガーデンにおいて開催し、約300名が参加した。

交歓会は、教育学研究科のNurul Mawadda（ヌルル マワッダ）さん、経済学部 of 陳 星（チェン シン）さんの司会進行のもと、長尾学長の挨拶に続き、留学生代表の教育学部4年 Azalia Binti Zaharuddin（アザリア）さんの挨拶、徳田副学長（国際戦略・特命担当）による乾杯の音頭で開始された。また、ベトナム、タイ、インドネシアからの留学生によるダンスが披露され、大いに盛り上がった。

最後にロン留学生センター長による挨拶で交歓会を締めくくった。これを機に本学の留学生達が、さらなる交流の輪を広げ、日本での留学生生活を充実したものにしてくれることを願う。

香川大学帰国留学生ネットワーク 中国支部第4回総会の開催

2015年8月8日(土)、香川大学帰国留学生ネットワーク中国支部第4回総会を、本学協定校である天津農学院を会場に開催した。

総会には、本学各学部や旧医科大学で学んだ帰国留学生を中心に約50名が集い、本学からは、長尾学長、今井田農学部長、片岡農学部長、徳田医学部教授、姚経済学部教授、楠谷農学部名誉教授、ロン留学生センター長らが出席した。

中国支部は、本学を卒業・修了した帰国留学生相互の親睦・情報交換を図るとともに、本学の国際交流の推進に寄与することを目的として2009年6月に北京で設立されたもので、隔年開催の総会のために中国各地から駆けつけた元留学生達からは、香川大学時代の思い出や帰国後の活動の近況報告、在学中に受けた指導への感謝や卒業後の研究成果、今後の香川大学への期待などが寄せられ、皆で、今後の交流のため、一層のネットワーク拡大を誓った。

午後には、天津農学院の邢学長を表敬訪問し、希少糖プロジェクトなど香川大学の代表的な研究の現状を紹介する一方で、留学生会会長に再任された崔教授と楠谷香川大学名誉教授との共同研究が進展している中国の良食味米育成のプロジェクトの説明を受けるなど、さらに広い分野での研究交流についても意見交換が行われ、今後は、元留学生との連携協力と国際交流の推進が期待される。

香川大学グローバル人材育成事業による英語ネイティブ教員の採用

インターナショナルオフィス 細田 尚美

平成27年度、インターナショナルオフィスは、香川大学グローバル人材育成事業として非常勤教員（通称：英語ネイティブ教員）6名を配置した。6名の教員はそれぞれ、教育学部、経済学部、医学部、工学部、農学部、インターナショナルオフィスに配置され、各学部における学生の語学・学術能力の向上のための指導や助言、学生・教職員の国際交流の推進を行うほか、幸町オーリーブスクエアにおいては全員でイングリッシュ・ラウンドテーブルという英語による発表とディスカッションの授業を行うなど、大学全体の国際化にかかわる活動に従事した。本事業は、「学長のリーダーシップの発揮」を目的として、文部科学省から措置（期間：平成26年10月1日～平成28年3月31日）されたもので、本事業を通じ、香川大学が目指す国際的に通用性のある教育を拡充した。

香川大学グローバル人材育成事業非常勤教員（平成27年度）

デイビス、エリック・ジェームズ（Davis, Erik James）

モストファ、ルビ（Mostofa, Ruby）

マリン、ジェイソン（Murrin, Jason）

セイル、ウィリアム・チェト（Seil, William Chet）

ニワッティサイウォン、セクシリ（Seksiri Niwattisaiwong）

ジェーガー、サム（Sam Jaeger）

民間宿舎借り上げ事業

慢性的な留学生宿舎の不足を解消するため、平成25年度より香川大学花園寮、コーポ西町南の2棟の民間宿舎の借り上げを開始し、3年目の運営となった。

香川大学花園寮では、平成27年6月27日(土)に学生と寮近隣の地域の方々との交流を図るため、また日本文化を体験することを目標として、「花園寮交流会」(そうめん流し)を開催した。学生らは、そうめん流しの竹を設置したり、稲荷ずしを作ったりして、地域の方々をお迎えする準備に励んだ。準備が整ったところで学生代表が地域の方々をご案内し、花園町自治会長様を始めとする地域の方々にご参加いただいた。始終和やかな雰囲気でも地域の方々や学生同士の交流が深まった。

大学の世界展開力強化事業について（SUIJI）

SUIJI（Six University Initiative Japan-Indonesia）は、愛媛大学、香川大学、高知大学とインドネシアのガジャマダ大学、ボゴール農業大学、ハサスディン大学の6大学が、平成23年3月に設立した熱帯農業に関して連携して共同研究・共同教育を進めていくためのコンソーシアムで、平成24年度には、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」として「日本とインドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスラーニング・プログラム（SUIJI-SLP）」が採択された。

平成27年度の活動は、8月19日(水)～9月6日(日)にSUIJI-SLPとして、インドネシア人学生40人、日本人学生72人が3週間にわたって、過疎化・高齢化の進む四国の農山漁村に共に滞在し、現実の課題に取り組みながら学ぶプログラムを実施した。

香川大学では、香川県小豆島町で、インドネシア人学生7人、日本人学生9人が、地域課題の解決に取り組む地域貢献を通じて、未来社会の持続的な発展に貢献するサーバント・リーダーとしての素養を身につけるために学んだ。

平成27年9月12日(土)～9月14日(月)には、本学が幹事校として、第5回SUIJIセミナー「熱帯農業に関するSUIJIコンソーシアム2015香川大会」を幸町キャンパスで主催した。1日目は、午後から6大学SUIJI推進室会議の実施、その後の歓迎パーティーでは、参加した教員、学生の相互の交流が行われた。

2日目は、セミナー総会が開催され、平成27年度のコンソーシアム機構長である本学の長尾学長による歓迎の挨拶の後、「国際連携教育・研究と今後の取り組み」について各学長等からの発表、続いて、「SUIJI-J（D）P-MSの研究内容」についての学生プレゼンテーション等を行った。

午後からは、香川県知事、文部科学省高等教育局高等企画教育企画課国際企画室長より祝辞をいただき、引き続き学生プレゼンテーションが行われた。総会の最後には、「熱帯農業に関するSUIJIコンソーシアム協定書」の更新のための署名式典を催し、今後5年間のさらなる協力を6大学で約した。

さらに3日目に県内エクスカージョンを実施し、相互に刺激的な異文化交流にも役立った。

「海外サービスラーニング」としては、平成28年2月24日(水)から約3週間にわたり、日本人学生55人（香川大学生21人）及びインドネシア学生61人が参加して、インドネシアの西ジャワ州ボゴール県、中ジャワ州トゥガル県、ジョグジャカルタ特別州バントウル県及びグヌン・キドウル県、南スラウェシ州マカッサル市スプルモンデ諸島とタナ・トラジャ県の5か所の農山漁村に共に滞在し、それぞれの地域の可能性の発見と、課題の発掘及び解決策を見出すことを目的とした地域貢献活動に取り組んだ。3月13日(日)にボゴール農業大学で成果発表セミナーを行い、日本人学生は3月16日(水)に帰国した。

また、平成28年3月には、SUIJI提供のMaster Program修了6名、Basic Leader認定35名（うち2名Advancedにも認定）に対する各証書発行のため、長尾学長が承認署名を行い、機構長としての任期を終えた。

JICA との連携

インターナショナルオフィス 熊谷 信広

2015年度における JICA との連携は、JICA から本学出向職員を中心に、JICA 四国と連携し、以下の業務を実施した。

(1) 授業の担当

- 全学共通科目 国際協力論
- 留学生対象英語講義 初級日本事情 b
- Study Abroad
- Project Sanuki
- 全学共通授業科目「国際社会と日本・日本語」
- 海外体験型異文化コミュニケーション講義
- 工学部大学院生対象「国際・技術戦略論」
- 医学部看護学科「国際看護学」
- 経済学部「現代経済社会事情」
- 特別講演 JICA 理事講演

(2) 国際交流事業の運営

- JICA 事業に係る本学関係者・JICA 間のコーディネート
- 上記事業申請等に係る申請業務、本学関係者への助言指導
- JICA 事業で受け入れた外国人に対する指導及び支援
- 海外留学において国際協力に関連する活動を行おうとする日本人学生への指導
- English Café 運営に係るネイティブ教員のコーディネート
- トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コースにおける地域コーディネーター

(3) JICA プログラムの導入

- 課題別研修採択：アフリカ英語圏村落給水プログラムコースへの参加
- 国別特設研修（ラオス）実施：「コミュニティ・イニシアティブによる初等教育改善」
- 課題別研修 ICT 利用による遠隔医療プログラム課題別研修提案
- 青年研修提案：パキスタン総合防災教育
- 日系研修提案：柔道及び日本事情
- ABE イニシアティブ（アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ）：
修士課程及びインターンシッププログラム長期研修員受け入れ（経済学部、農学部）
- 草の根技術協力：「カンボジア国カンダルスタン郡の衛生教育改善のための学校保健室体制の構築プロジェクト」提案；事業実施前現地調査実施提案
- インドネシア JICA 案件外部事後評価への専門家として教育学部教授派遣
- 青年海外協力隊春・秋募集説明実施、個別相談会開催

- JICA 大学生国際協力フィールドスタディ・プログラム学生参加
- JICA 国内インターン研修実施

以上

平成 27 年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会の実施

12月17日(木)、18日(金)の2日間、「大学に求められる国際貢献と地域貢献」をテーマに、平成27年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会が、本学を当番校として開催され、全国から国際担当の理事、副学長、事務職員等約200名が参加した。

本協議会は、国立大学法人等における国際企画に係る協議を行うとともに、文部科学省等関係機関との情報交換を促進することを目的とし、毎年、開催しているものである。

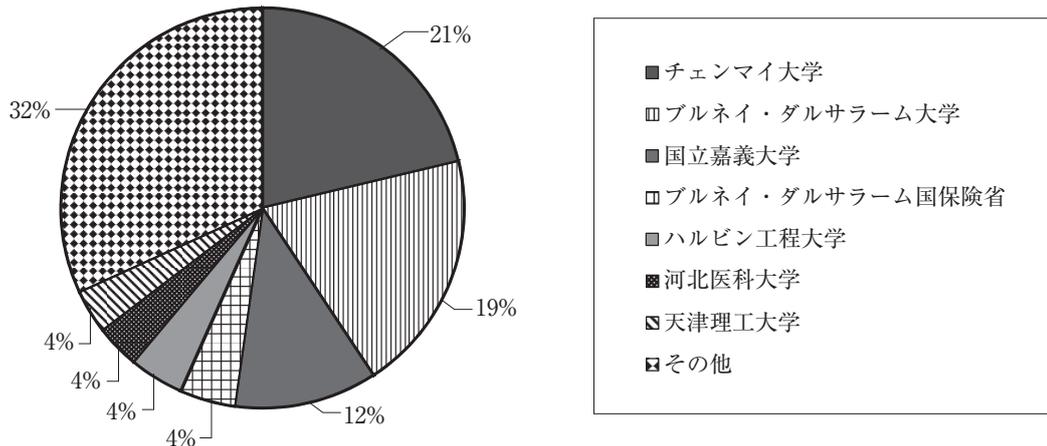
1日目は、かがわ国際会議場を会場に、「ASEANの小王国ブルネイと日本の外交政策」と題して、ブルネイ駐箚特命全権大使の伊岐典子氏による基調講演が行われた。続いて、文部科学省から、大臣官房国際課長の豊岡宏規氏による「教育分野における国際戦略について」、高等教育局高等教育企画課国際企画室長の松本英登氏による「大学の国際化に関する文部科学省の取組と大学における安全保障貿易管理」、科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官（国際担当）の坂口昭一郎氏による「科学技術力の強化と大学の国際化」と題する施策説明が行われた。

2日目は、本学講堂を会場に、「これからの日本の国際協力と大学の役割」と題して、独立行政法人国際協力機構理事の加藤宏氏による講演が行われた。最後に、本学の徳田副学長（国際戦略・特命担当）による「香川大学の目指す国際貢献と地域貢献」と題する講演を行った。

各参加者は、2日間を通して、講演や施策説明を熱心に聞き入るとともに、講演者や説明者と活発な質疑応答や意見交換を行った。

学術交流協定締結校との交流状況（受け入れ）

受け入れ人数推移（協定校地域別）

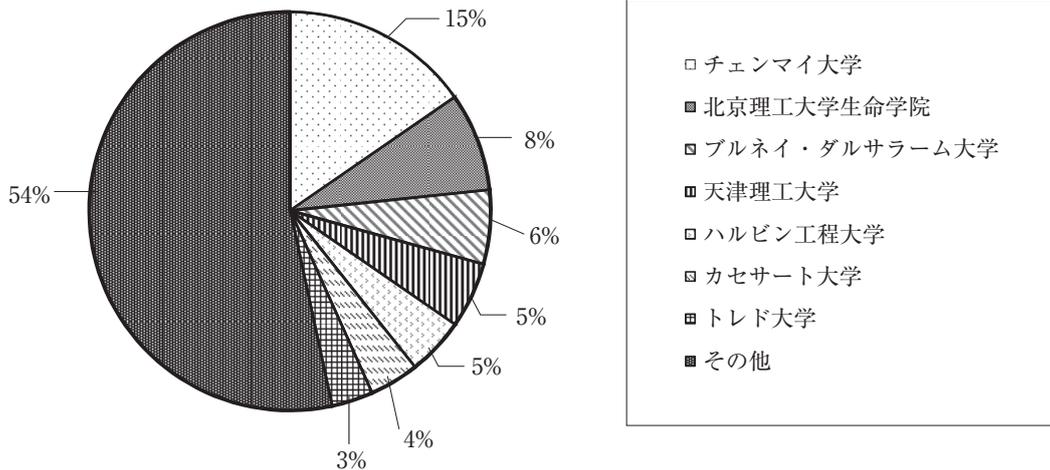


学術交流協定締結校からの受け入れ事業	件数
チェンマイ大学	24
ブルネイ・ダルサラーム大学	22
国立嘉義大学	13
ブルネイ・ダルサラーム国保険省	5
ハルビン工程大学	4
河北医科大学	4
天津理工大学	4
コロラド州立大学	3
電子科技大学	3
トリブバン大学	3
長春理工大学	3
カセサート大学	2
南ボヘミア大学	2
ディボネゴロ大学	2
北京理工大学生命学院	2
ハンバット大学	1
浙江工商大学	1
ボゴール農業大学農学部及び大学院研究科	1
チュラロンコン大学	1
ルイビル大学	1
中国海洋大学	1
西北大学	1
クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学	1

学術交流協定締結校からの受け入れ事業	件数
シェレバングラ農科大学	1
ハノイ工科大学	1
武漢理工大学	1
第四軍医大学	1
アサンプション大学	1
インド工科大学グワハチ校	1
ノースイースタンヒル大学	1
北京師範大学化学学院	1

学術交流協定締結校との交流状況（派遣）

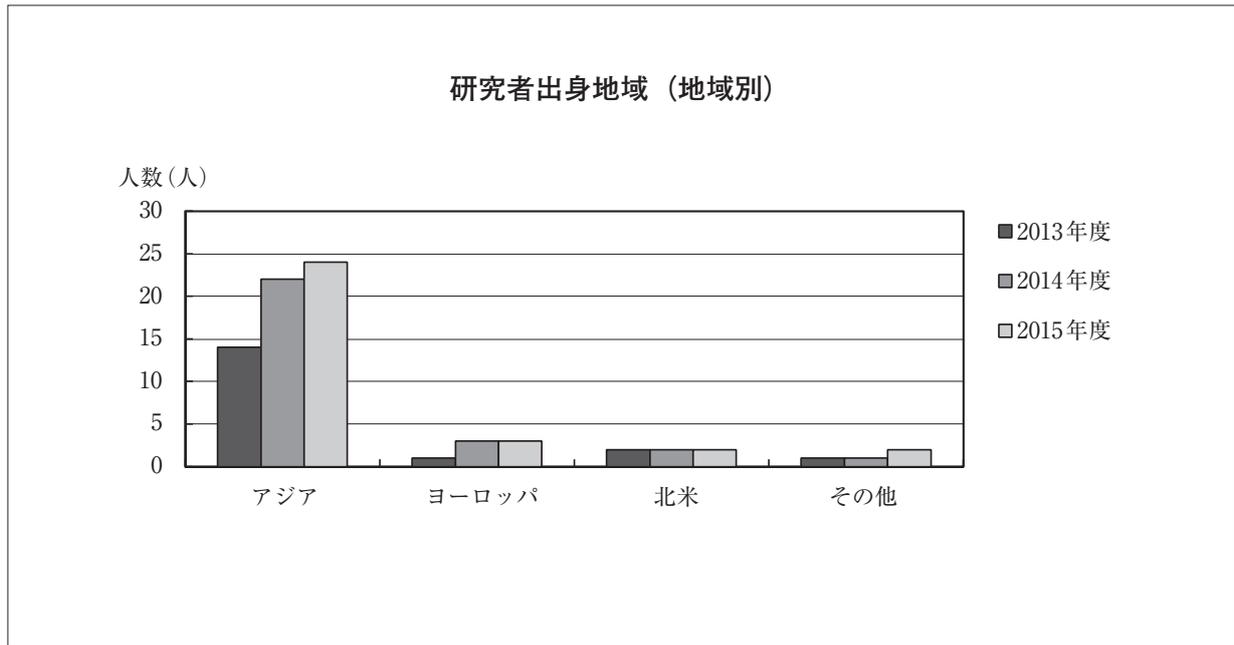
派遣人数推移（協定校地域別）



学術交流協定締結校への派遣事業	件数
チェンマイ大学	23
北京理工大学生命学院	12
ブルネイ・ダルサラーム大学	9
天津理工大学	8
ハルビン工程大学	7
カセサート大学	6
トレド大学	5
電子科技大学	4
真理大学	4
ブルネイ・ダルサラーム国保健省	4
国立嘉義大学	4
メチヨー大学	4
チュラロンコン大学	4
真理大学	4
メチヨー大学	4
長春理工大学	3
トリブバン大学	3
チュラロンコン大学	3
アサンプション大学	3
ガジャマダ大学	3
上海大学	3
国立政治大学	3
武漢理工大学	3
コロラド州立大学	2
ボゴール農業大学農学部及び大学院研究科	2

学術交流協定締結校への派遣事業	件数
浙江工商大学	2
北京外国語大学	2
西北大学	2
ハンバット大学	2
武漢理工大学	2
ガウハチ大学地理学科	2
インド工科大学グワハチ校	2
ノースイースタンヒル大学	2
河北医科大学	2
ハノイ工科大学	2
王立農業大学	1
ディボネゴロ大学	1
南ボヘミア大学	1
北京師範大学化学学院	1
シレバングラ農科大学	1
ハルムスタッド大学情報科学部	1
カリフォルニア州立大学フラトン校	1
天津農学院	1
ブリティッシュコロンビア大学応用科学部	1
ミュンヘン工科大学	1
ダッカ大学生物科学部	1
カルガリ大学医学部	1
南京農業大学	1
ラインマイン大学	1
ナポリ フェデリコ2世大学農学部	1

外国人研究者等の受け入れ状況



【地域別】

(単位：人)

	アジア	ヨーロッパ	北米	その他	合計
2013年度	14	1	2	1	18
2014年度	22	3	2	1	28
2015年度	24	3	2	2	31

【国別】

アジア (単位：人)

国名	2013年度	2014年度	2015年度
インド	0	0	1
インドネシア	0	2	2
タイ	1	3	4
中国	5	7	7
台湾	0	1	2
バングラデシュ	4	3	2
フィリピン	1	0	0
ベトナム	0	2	2
マレーシア	1	1	0
スリランカ	0	1	1
モンゴル	2	2	2
ニュージーランド	0	0	1

ヨーロッパ (単位：人)

国名	2013年度	2014年度	2015年度
フィンランド	0	0	0
ベルギー	1	2	1
イギリス	0	1	0
ルーマニア	0	0	0
イタリア	0	0	1
フランス	0	0	1

北米 (単位：人)

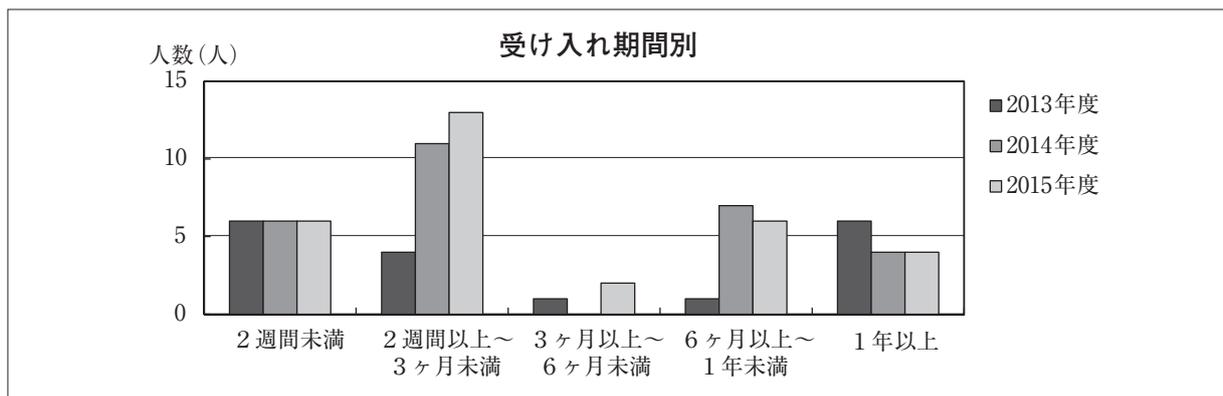
国名	2013年度	2014年度	2015年度
アメリカ	2	2	2

アフリカ (単位：人)

国名	2013年度	2014年度	2015年度
エジプト	0	1	2

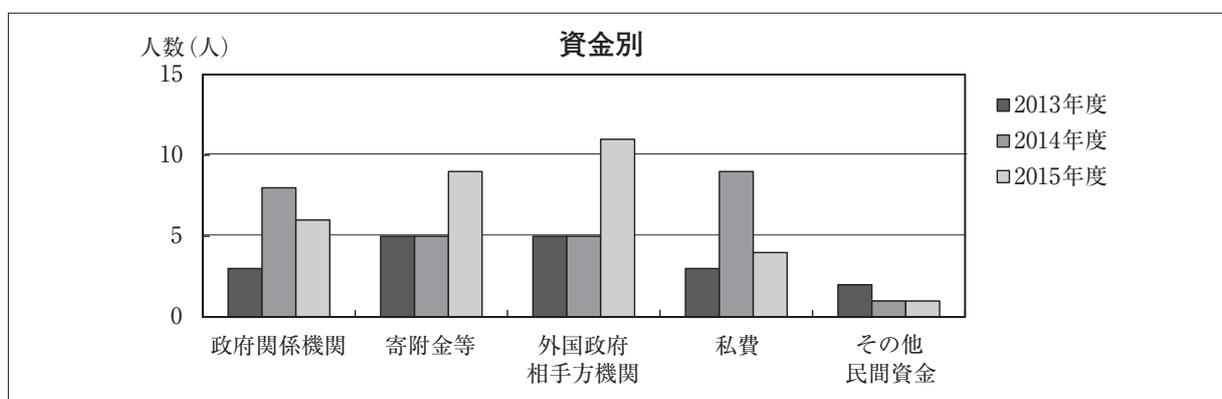
中東 (単位：人)

国名	2013年度	2014年度	2015年度
イスラエル	1	0	0



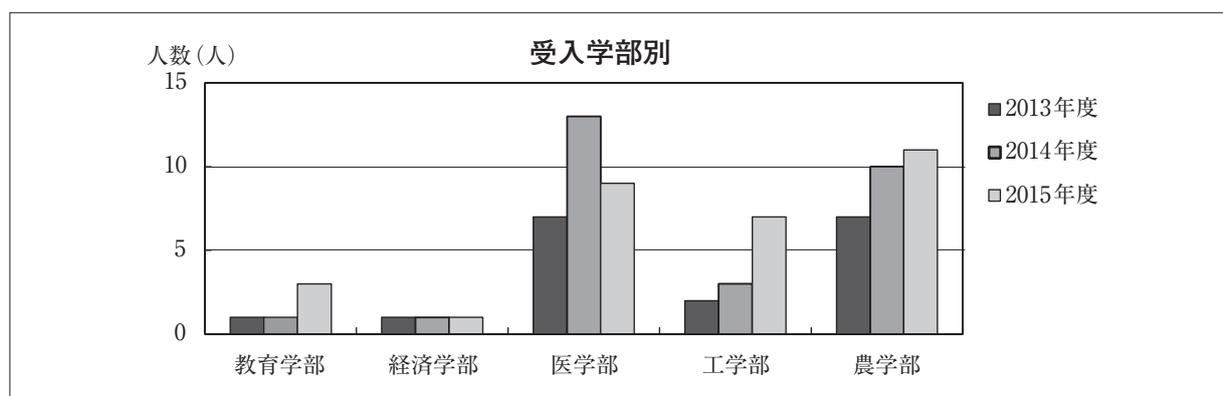
【受入期間別】 (単位：人)

年 度	2 週間未満	2 週間以上～3ヶ月未満	3ヶ月以上～6ヶ月未満	6ヶ月以上～1年未満	1年以上	合 計
2013年度	6	4	1	1	6	27
2014年度	6	11	0	7	4	18
2015年度	6	13	2	6	4	31



【資金別】 (単位：人)

年 度	政府関係機関	寄附金等	外国政府相手方機関	私 費	そ の 他民間資金	合 計
2013年度	3	5	5	3	2	18
2014年度	8	5	5	9	1	28
2015年度	6	9	11	4	1	31



【受入学部別】 (単位：人)

年 度	教育学部	経済学部	医学部	工学部	農学部	合 計
2013年度	1	1	7	2	7	18
2014年度	1	1	13	3	10	28
2015年度	3	1	9	7	11	31

平成 27 年度 国際学会・シンポジウム等開催状況

学会・シンポ等名称	開催期間	開催場所	招へい外国人研究者等	主催部局等名	担当教員	参加者人数
Mathematical and geographical modelling for environmental humanities	2015/10/26 ～10/27	京都大学	J. Donald Hughes 他	教育学部	青木高明	30名
日本とドイツの臓器移植の現状と課題	2015/10/2	香川大学幸町キャンパス・オリーブスクエア	Prof. Henning Rosenau (ドイツ・ハレ大学)	主催：四国グローバルリーガルセンター 共催：法学部、医学部、連合法務研究科	柴田潤子教授 (四国グローバルリーガルセンター)、平野美紀教授 (法学部)、寛善行教授 (医学部)、佐川友佳子准教授 (法学部)	120名
Healthy Life Style Symposium	2015/6/14	ブルネイ・ダルサラーム大学	Dr. Hjh Norhayati binti Md Kassim, Dr. Nipawan Waisayan ほか	医学部	徳田雅明	80名
IEEE ICMA 2015 メカトロニクス及びオートメーション国際会議	2015/8/2 ～8/5	北京友誼ホテル (中国、北京)	-	工学部	郭 書祥	約500名
国際会議 SNPД 2015	2015/6/1 ～6/3	かがわ国際会議場	Prof. Roger Lee, Central Michigan University, USA Prof. Yeong-Tae Song, Towson University, USA	工学部	垂水浩幸	113名
IEEE ICMA 2015 メカトロニクス及びオートメーション国際会議	2015/8/2 ～8/5	北京友誼ホテル (中国、北京)	1. Dr. Raja Chatila Director of Research CNRS Director of the Institute of Intelligent Systems and Robotics University Pierre and Marie Curie and CNRS, Paris - France 2. Dr. Metin Sitti Director, Max-Planck Institute for Intelligent Systems, Stuttgart, Germany Professor, Department of Mechanical Engineering and Robotics Institute, Carnegie Mellon University, Pittsburgh, USA 3. Prof. T. J. Tarn Washington University, USA 4. Prof. Paolo Dario Scuola Superiore Sant'Anna, Italy 5. Prof. Mario A. Rotea University of Massachusetts, USA 6. Prof. Hong Zhang University of Alberta, Canada	工学部	郭 書祥	約500名

学会・シンポ等名称	開催期間	開催場所	招へい外国人研究者等	主催部局等名	担当教員	参加者人数
第四回国立嘉義大学と香川大学の合同ワークショップ~教育学、工学、生命科学 (The Fourth Chiayi-Kagawa Workshop on Education, Engineering, and Life Science)	2015/ 11/ 22 ~11/ 24	香川大学 幸町キャンパス他	Jyh-Chyuan DING Juei-Hsin WANG Chun-Hsien CHEN Chih-Yi CHIU Kuo-Hung HUANG 他	教育学部 工学部 農学部	高木由美子 (教育学部) 垂水浩幸 (工学部) 川村理 (農学部) 他	44名
2015年 I E E E メカトロニクスと オートメーションに関する国際会議 (The 2015 IEEE International Conference on Mechatronics and Automation)	2015/ 8/ 2 ~8/ 5	中国 北京市	1. Dr. Raja Chatila Director of Research CNRS Director of the Institute of Intelligent Systems and Robotics University Pierre and Marie Curie and CNRS, Paris-France E-mail : Raja.Chatila@isir.upmc.fr http : // www.isir.upmc.fr 2. Prof. Metin Sitti Director, Max-Planck Institute for Intelligent Systems, Stuttgart Germany Professor, Department of Mechanical Engineering and Robotics Institute Carnegie Mellon University, Pittsburgh, USA 3. Prof.Koichi Hashimoto, Graduate School of Information Sciences/ Department of Mechanical Engineering Tohoku University, Sendai, Japan	工学部	郭 書祥 (組織委員長)平田 英之 石原、澤田、鈴木、高橋 (組織委員)	450人 (34の国と地域)
The Fourth International Conference on Informatics & Applications (ICIA 2015) & The International Conference on Electronics & Software Science (ICESS 2015)/ 第4回情報科学と応用に関する国際会議及び(第1回)電子工学とソフトウェア科学に関する国際会議	2015/ 7/ 20 ~7/ 22	サンポート 高松 6 F 会議室	SDIWC 事務局より Dr.Eyas El-Qawasmeh (King Saud University) が来日	共催 工学部 および 総合情報センター	実行委員長： 今井慈郎 プログラム委員長： 安藤一秋 座長等分担： 浅野裕俊、 井面仁志、 高橋亨輔、 八重樫理人	日本人： 46名以上 外国人： 40名以上
第11回日米科学会議 11th US-Japan Scientific Seminar	2015/ 10/ 25 ~10/ 29	かがわ国際会議場	多数のため JSPS 報告書参照	農学部	秋光和也	約60名
キウイフルーツ育種の遺伝的背景に関する国際シンポジウム	2015/ 12/ 9	かがわ国際会議場	Huang Hongwen 博士 Allan Ross Ferguson 博士	農学部	秋光和也	約90名

学会・シンポ等名称	開催期間	開催場所	招へい外国人研究者等	主催部局等名	担当教員	参加者人数
香川大学国際学術・交流プロジェクト5「東南アジア産の植物の生物活性物質を利用する医薬・農薬の研究開発と早生樹のバイオマス利用」および応用生命化学研究センター合同第10回公開セミナー (The 10th Joint Seminar of the core themes of International Academic Research at Kagawa University, "Number 5: Research and development of pharmaceuticals and agrochemicals by utilizing bioactive substances of plants produced in South East Asia, and biomass utilization of fast-growing trees" and Applied Life Science Research Center)	2015/ 11/ 10	香川大学 農学部	ボゴール農業大学 林学部教授 Wasrin Syafii (ワスリン シャフイー)	農学部	片山健至	44名
Pacificchem 2015, Advances in Functional Foods and Flavor Chemistry Research	2015/ 12/ 17 ～12/ 18	アメリカ、 ハワイ	68名	農学部	田村啓敏	200名
第5回 SUIJI 国際セミナー	2015/ 9/ 12 ～9/ 14	香川大学	(ガジャマダ大学) Prof. Ir. Dwikorita Karnawati, M.Sc. Ph.D, Prof. Dr. Lilik Sutiarso, M.Eng., Dr. Ir. Nursigit Bintoro, M.Sc., Dr. Ir. Wahyu Supartono, Dr. Ir. A di Djoko Guritno (ボゴール大学) Herry Suhardiyanto, Edy Hartulistiyoso, Prastowo, Roedhy Poerwanto, Nahrowi, Yonny Koesmaryono, Muhammad A. Chosin, I Wayan Astika (ハサヌディン大学) Dwia Aries Tina PU- LUBUHU, Dorotea Agnes RAMPISELA, Mannyu BUDU, Saleh ALI, Ambo ALA, SURYANI ASAD AR- MYN	農学部	加藤 尚	109名
第16回 IEEE/ACIS ソフトウェア工学、 人工知能、ネットワーク、 並列／並行計算に関する 国際会議 (16th IEEE/ACIS Inter- national Conference on Software Engineering, Artificial Intelligence, Networking and Paral- lel/Distributed Comput- ing)	2015/ 6/ 1 ～6/ 3	サンポー トホール 高松	Roger Lee, Yeong-Tae Song, 他	総合情報 センター	垂水浩幸 (工学部) 最所圭三 (工学部／総 合情報セン ター) 八重樫理人 (工学部) 高木智彦 (工学部) 他	113名
香川大学帰国留学生 ネットワーク 中国支部総会	2015/ 8/ 8	天津 農学院 (中国)		インター ナショナル オフィス	ロンリム	約50名

「健康なライフスタイル」国際シンポジウムの開催

インターナショナルオフィス 細田尚美

6月14日(日)、ブルネイ・ダルサラーム大学において、「Healthy Lifestyle Symposium : Innovation in Obesity and Diabetes Mellitus Prevention and Control」と題した、肥満と糖尿病の予防と対策について話し合うシンポジウムが開かれ、日本、ブルネイ・ダルサラーム、タイ、マレーシアの4カ国からの産官学の関係者が集い、様々な視点から取り組みを紹介し、解決策について論じた。

本学からは、徳田雅明教授(医学部)が香川県における生活習慣病を克服するための学際的試みに関する基調講演を行った。さらに、高木由美子教授(教育学部)・細田尚美講師(インターナショナルオフィス)がブルネイ・ダルサラームにおける学校教育のなかの食育の現状について、また、モハマド・アクラム・ホセイン博士研究員(医学部)は肥満と糖尿病に関連する希少糖の研究について、それぞれ研究発表を行った。

シンポジウムには地元のメディア関係者も多く参加し、シンポジウムの内容はブルネイ・ダルサラームの新聞などでも取り上げられた。

【プログラム】

8:00 開会の挨拶

Associate Professor Dr Hj Azam Bin OKMB Hj Othman, Director of CARE

8:15 基調講演

- 1) NonCommunicable Diseases in Brunei Darussalam : Where are we on the NCD Journey? (Dr Hajah Norhayati binti Haji Md Kassim, Ministry Of Health, Brunei Darussalam)
- 2) Multi-Disciplinary Challenges To Overcome Health-Related Diseases Such As Obesity And Diabetes In Kagawa, Japan (Professor Dr Masaaki Toduka, Kagawa University, Japan)

8:55 研究発表

- 1) Nutrition Education at Schools in Brunei Darussalam : Current Status and Challenges (Professor Dr Yumiko Takagi & Assistant Professor Dr Naomi Hosoda, Kagawa University, Japan)
- 2) Rare Sugar Research On Obesity And Diabetes (Dr Mohammad Akram Hossain, Kagawa University, Japan)
- 3) Art and Science in Obesity and Diabetes Care (Dr Nipawan Waisayanand, Chiang Mai University, Thailand)
- 4) Obesity, Fatty Liver & Hypersensitive Vessel (Dr Wan Amir Nizam bin Wan)

Ahmad, University Sains Malaysia, Malaysia)

- 5) Dietary Fiber, Fibersol®-2, for Healthy Eating!- Fiber Fortification in Food & Health Benefits (Sumiko Kanahori, Matsutani Chemical Industry Co. Ltd, Japan)
- 6) Proposed Research Study On Effect Of D-Allulose On Plasma Glucose And Insulin Levels In Healthy Subjects (Dr Hj Fazean Irdyati binti Hj Idris, PAPRSB IHS, UBD)
- 7) UBD HeLP Model For Prevention of Childhood Obesity (Dr Nik Ani Afiqah binti Hj Mohamad Tuah, PAPRSB IHS, UBD)
- 8) Laboratory Investigation of Rare Sugar and Development of Functional Food (Dr Suwarni binti Hj Mohd Diah, PAPRSB IHS, UBD)

11 : 15 質疑応答・総合討論

12 : 00 閉会

午後 展示物の紹介

日本語教育カリキュラム等の報告

インターナショナルオフィス 高水 徹

1. 概要

インターナショナルオフィス留学生センターが平成27年度に提供した日本語教育関連科目等は、以下の通りである。

- ① さぬきプログラム生および国費予備教育生対象日本語研修コース（初級）
- ② 日本語講座
- ③ 医学部における日本語サロン
- ④ 日本の食の安全留学生特別コースの日本語関連科目

平成26年度との主な相違は、以下の点である。27年度開講の日本語研修コースは、前期は国費の予備教育生およびさぬきプログラムを主な対象として、後期は国費の予備教育生がいなかったため、さぬきプログラム生を主な対象として実施し、レベルは初級であった。

2. それぞれの科目に関する記述

- ① さぬきプログラム生および国費予備教育生対象日本語研修コース（初級）

日本語研修コースは、国費留学生の予備教育として、また、さぬきプログラムの一環として開講されるコースで、集中的に日本語を習得する。毎日開講される「日本語」の他、週2～3コマの「初級日本事情」および経済学部開講の同趣旨の授業を含んでいる。

平成27年度前期は、国費留学生2名およびさぬきプログラム生3名が主な対象であった。後期は、留学生センターに所属する国費留学生がいなかったため、さぬきプログラムの受講生3名が主な対象となった。学生のレベルに合わせ、初級の授業が行われた。

使用教材は『みんなの日本語』で、前期、後期いずれにおいても、発音、ひらがなから始め、25課までは終了できたが、その後は数課ずつしか進めることができなかった。これは例年と比較して、遅めのペースである。一方で、英語による日本事情の充実や、他コースの留学生（特に、日本語・日本文化研修留学生、別稿を参照）および日本人学生との交流等の相乗効果で、習得した日本語の知識の活用も積極的になされたようである。担当教員は日本語が専任教員2名、非常勤講師1名、日本事情が専任教員3名、客員教員1名である。

なお、27年度までの留学生センター所属の国費留学生に関するデータは、本稿末尾に掲載している。

- ② 日本語講座

このカテゴリーの授業は、学生が自分の都合のよい時間に、内容およびレベルを選択して受講することができる。これらの授業は、本学に所属する学生が日本語力を向上させるためのものであり、単位の付与はない。

③ 医学部における日本語サロン

医学部の留学生のため、地元香川で日本語学習支援・生活支援を行っているボランティア団体である「わ」の会にお願いして、サロンを開催していただいている。以前は日本語レベルの高い学生も対象としていたが、現在では、対象を入門または初級に絞って実施している。

④ 日本の食の安全留学生特別コースの日本語関連科目

これらの科目はアジア人財資金構想（高度専門留学生育成事業）の科目を引き継いで以降、「アジア人財日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「ビジネス日本語Ⅰ、Ⅱ」「ビジネス教育」で構成されていた。しかし、対象学生の日本語力を引き上げ、卒業時にN2程度という卒業要件を満たすという必要性、および学生からの要望により、「食の安全学生向け補講」として科目数を増加させた。

以上に加え、留学生センター以外から提供される以下の授業科目も、一覧に掲載されている。

⑤ 全学共通科目の日本語・日本事情（大学教育開発センター提供、表中※で表記、単位あり）

⑥ 農学研究科AAPコースの日本語・日本事情

⑤はその編成および実施の一部を大学教育開発センターのコーディネーターとして留学生センター教員が担当している。⑥は農学研究科における英語によるコース（修士課程）の中で、必修化されている日本語および日本事情に関する科目で、その編成および実施を留学生センターが担当している。

これらに関しては、インターナショナルオフィス留学生センターが直接提供しているわけではないが、カリキュラム、非常勤講師の調整、運営等を留学生センターまたはその教員が主導している。

留学生に対するこれらの授業に関する周知は、以下の一覧に基づき、新入留学生対象のガイダンスや掲示、ネット上の掲載を通して行っている。

平成 27 年度 前期 日本語関連授業一覧

曜日	幸町キャンパス Saiwai-cho Campus	農学部キャンパス Faculty of Agriculture	医学部キャンパス Faculty of Medicine	工学部キャンパス Faculty of Engineering	
月 Mon	1				
	2	※★初級日本語Ia Elementary Japanese Ia 塩井 Shioi			
		初中級日本語 Upper Elementary Japanese 高水 Takamizu			
	3	※★初級日本語Ia Elementary Japanese Ia 塩井 Shioi ※日本語Ia (中級) Japanese Ia (Intermediate) 山下 (直) Yamashita, N. ※日本語IIIa (中上級) Japanese IIIa (Upper Intermediate) 轟木 Todoroki			
	4	※★初級日本事情b Japanese current affairs b (Elementary): Japanese Official Development Assistance toward the developing countries 熊谷 Kumagai			
5					
火 Tue	1	※日本語Ib (中級) Japanese Ib (Intermediate) 山下 (明) Yamashita, T.			
	2	※★初級日本語Ic Elementary Japanese Ic 塩井 Shioi	サバイバル日本語 (初級) Survival Japanese (Elementary) 早川 Hayakawa		
		初中級日本語 Upper Elementary Japanese 高水 Takamizu			
	3	※★初級日本語Ic Elementary Japanese Ic 塩井 Shioi	日本語基礎II Basic Japanese II (Intermediate) 青木 Aoki		
	4	※★初級日本事情c Japanese current affairs c (Elementary): Comparative Cultures 細田 Hosoda	ビジネス日本語I Business Japanese I (Upper Intermediate) 青木 Aoki		
5	中級日本語 Intermediate Japanese 秋田 Akita				
水 Wed	1				
	2	★初級日本語 Elementary Japanese 和田 Wada	科学技術日本語 Japanese for Science and Technology 早川 Hayakawa		
	3	★初級日本語 Elementary Japanese 和田 Wada	日本語基礎II Basic Japanese II (Intermediate) 14:00~17:10 塩井 Shioi	○日本語サロン (初級) Lang. Salon Class (Elementary) 14:00~15:30 「わ」の会	
		※日本事情Ib Japanese Affairs Ib 正楽 Shoraku			
	4	※★初級日本事情a Japanese current affairs a (Elementary): Internationalization of Japan's youth 正楽 Shoraku			
5					
木 Thu	1				
	2	※★初級日本語Ib Elementary Japanese Ib 高水 Takamizu			
		※日本語Vb (上級) Japanese Vb (Advanced) 佐藤 Sato			
	3	※★初級日本語Ib Elementary Japanese Ib 高水 Takamizu ※日本語IIIb (中上級) Japanese IIIb (Upper Intermediate) 佐藤 Sato			
	4	※★プロジェクトさぬき Project Sanuki (Research based course about Kagawa) ロン他 Lrong and others			
5	※★プロジェクトさぬき Project Sanuki (Research based course about Kagawa) ロン他 Lrong and others				
金 Fri	1	★初級日本語 Elementary Japanese 高水 Takamizu			
	2	※日本語Va (上級) Japanese Va (Advanced) 早川 Hayakawa ★初級日本語 Elementary Japanese 高水 Takamizu			
	3	※日本事情Ia Japanese Affairs Ia 早川 Hayakawa		☆初中級1 Upper Elementary 1 児島 Kojima	
		初中級日本語 Upper Elementary Japanese 塩井 Shioi			
	4	★Globalization in the higher education sector: trends, issues, and strategies ロン Lrong		☆初中級2 Upper Elementary 2 児島 Kojima	
5					

平成 27 年度 後期 日本語関連授業一覧

曜日	幸町キャンパス Saiwai-cho Campus	農学部キャンパス Faculty of Agriculture	医学部キャンパス Faculty of Medicine	工学部キャンパス Faculty of Engineering			
月 Mon	1						
	2	※★初級日本語 Ia Elementary Japanese Ia	塩井 Shioi				
	3	※★初級日本語 Ia Elementary Japanese Ia	塩井 Shioi				
	4	※日本語 IVa (中上級) Japanese IVa (Upper Intermediate)	轟木 Todoroki				
	5	※★初級日本事情 b Japanese current affairs b (Elementary) ; Japanese Official Development Assistance toward the developing countries	熊谷 Kumagai				
火 Tue	1	※日本語 IVb (中上級) Japanese IVb (Upper Intermediate)	山下 (明) Yamashita, T.				
	2	★初級日本語 Elementary Japanese	塩井 Shioi	ビジネス日本語 II Business Japanese II (Upper intermediate)	宝山 Hozan		
	3	※日本語 Ic (中級) Japanese Ic (Intermediate)	高水 Takamizu	日本事情・地域交流 Studies on Japanese Culture/ Community Exchange (Elemen- tary)	早川 Hayakawa		
	4	★初級日本語 Elementary Japanese	塩井 Shioi	ビジネス教育 I Japanese business manner and culture I (Upper intermediate)	宝山 Hozan	☆初中級 2 Upper Elementary 2	児島 Kojima
	5	中上級日本語 Upper Intermediate Japanese	秋田 Akita	日本語基礎 I Basic Japanese I (Upper Elementary)	青木 Aoki	☆初中級 1 Upper Elementary 1	児島 Kojima
水 Wed	1						
	2	★初級日本語 Elementary Japanese	和田 Wada	フレッシュマンセミナー (初級日本語) Freshman Seminar (Elementary Japanese)	早川 Hayakawa		
	3	※日本語 IIa (中級) Japanese IIa (Intermediate)	佐藤 Sato			○日本語サロン (初級) Lang. Salon Class (Elementary) 14:00~15:30	「わ」の会
	4	※★初級日本事情 a Japanese current affairs a (Elementary) ; Internationalization of Japan's youth	正楽 Shoraku	日本語基礎 III Basic Japanese (Upper Intermediate)	塩井 Shioi		
	5			日本語基礎 III Basic Japanese (Upper Intermediate)	塩井 Shioi		
木 Thu	1						
	2	※★初級日本語 Ib Elementary Japanese Ib	高水 Takamizu				
	3	※日本語 IIc (中級) Japanese IIc (Intermediate)	塩井 Shioi				
	4	※★初級日本語 Ib Elementary Japanese Ib	高水 Takamizu				
	5	※★プロジェクトさぬき Project Sanuki (Research based course about Kagawa)	ロン他 Lrong and others				
金 Fri	1	※★初級日本語 Ic Elementary Japanese Ic	高水 Takamizu				
	2	日本語基礎 (初中級) (Upper Elementary)	塩井 Shioi				
	3	※★初級日本語 Ic Elementary Japanese Ic	高水 Takamizu				
	4	※日本語 VIa (上級) Japanese VIa (Advanced)	早川 Hayakawa				
	5	日本語基礎 (初中級) (Upper Elementary)	高水 Takamizu				

留学生センター所属国費留学生

期 間	国 籍	人数	予備教育後の所属
2003年10月～2004年3月	コ ス タ リ カ	1	教育学部（教員研修）
2004年4月～2004年9月	ドミニカ共和国	1	経 済 学 研 究 科
	ベ ト ナ ム	1	経 済 学 研 究 科
2004年10月～2005年3月		0	
2005年4月～2005年9月	アルゼンチン	1	医 学 系 研 究 科
	エ ジ プ ト	1	医 学 系 研 究 科
	パプアニューギニア	1	医 学 系 研 究 科
2005年10月～2006年3月	フ ィ リ ピ ン	1	教育学部（教員研修）
2006年4月～2006年9月		0	
2006年10月～2007年3月		0	
2007年4月～2007年9月		0	
2007年10月～2008年3月		0	
2008年4月～2008年9月		0	
2008年10月～2009年3月	フ ィ リ ピ ン	1	教育学部（教員研修）
2009年4月～2009年9月	ジ ン バ ブ エ	1	農 学 研 究 科
2009年10月～2010年3月	ペ ル ー	1	教育学部（教員研修）
2010年4月～2010年9月		0	
2010年10月～2011年3月	カ ン ボ ジ ア	1	教育学部（教員研修）
	ホンジュラス	1	教育学部（教員研修）
2011年4月～2011年9月		0	
2011年10月～2012年3月	インドネシア	1	教育学部（教員研修）
	マレーシア	1	教育学部（教員研修）
2012年4月～2012年9月	ロ シ ア	1	経 済 学 研 究 科
2012年10月～2013年3月		0	
2013年4月～2013年9月		0	
2013年10月～2014年3月	フ ィ リ ピ ン	1	教育学部（教員研修）
	ラ オ ス	1	教育学部（教員研修）
2014年4月～2014年9月		0	
2014年10月～2015年3月	インドネシア	1	教育学部（教員研修）
	コ ス タ リ カ	1	教育学部（教員研修）
2015年4月～2015年9月	バングラデシュ	2	農 学 研 究 科
2015年10月～2016年3月		0	

相談（交流推進）事業の報告

インターナショナルオフィス ロン リム

平成 27 年度相談事業の報告をする。本学の留学生相談担当は、1 名で運営しているが、ひごろ、学内外から多数の関係者との協力で、相談に対応している。ほとんどの相談は、相談依頼者に耳を傾けて、話を聞くだけで済むが、深刻な要件だと、相談回数も時間も長くなることがある。このようなことが、むしろ、本当の相談であると思う。これらの相談は、まず、IO と学内の関係者と検討して、解決法を探る。多くのケースは、この段階で解決できるが、稀に、学外の専門家や知識人の協力を依頼することもある。

学生に相談業務の周知方法は、学内でのポスター掲示またはインターネットを通して掲載する。件数の数え方は、各相談には、1 回とする。相談内容によって、1 回の対応で済む場合もあり、数回の相談に渡って対応する場合もあった。本年の相談件数は、283 件だった。

<相談方法>

相談方法について(表 1 を参照)、一番多かったのは、直接研究室に来て相談を依頼するケース(165 件) だった。次に、研究室以外、学内で相談を行うのは 42 件だった。メールでのルートは 39 件で、3 番目に多かった。電話を通して相談を受けたのは 28 件だった。引き続き、学外で行う相談は 6 件だった。最後にファックスで受けた相談は 3 件だった。

表 1：相談方法 (件)

相談方法 / 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
メール	1	5		1	3		3			2	9	15	39
電話		2		4	4	10	4	1	1	1	1		28
ファックス					1		1			1			3
来室での相談	18	14	11	19	11	17	14	2	11	26	14	8	165
学内相談での相談	11	3	4	4	5	2	2	2	3	3	3		42
学外相談での相談						1			5				6
合計	30	24	15	28	24	30	24	5	20	33	27	23	283

<相談者>

相談者別を見ると、教職員との相談は 154 件で、数とすればもっとも多かった(表 2 を参照)。次に、留学生からの相談件数で、48 件だった。三番目に多かったのは、一般の方々からの 35 件だった。外部の教職員からの相談は 27 件だった。最後に、日本人の学生からの相談だった(19 件)。

表2：相談者 (人)

相談者 / 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
留学生	7	4	4	7	3	2	1			7	6	7	48
日本人学生		3	1	3		1	4		1	4	1	1	19
教職員	23	14	10	15	14	15	7	2	13	17	13	11	154
一般		2		3	5	11	7		2	1	2	2	35
外部学生													0
外部教職員		1			2	1	5	3	4	4	5	2	27
合計	30	24	15	28	24	30	24	5	20	33	27	23	283

<相談内容>

相談内容について、一番多かったのは、学業関係だった（表3を参照）。これは74件だった。2番目に多かった相談内容は、国際交流活動のことだった。件数としては69件だった。これは例年同様、留学生は日本人学生と地域住民との交流に関する相談内容であった。

表3：相談内容 (件)

相談内容 / 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
交通事故							1						1
指導教員とのトラブル	2	4			1								7
名誉棄損問題													0
暴力事件													0
ハラスメント				6									6
盗難被害					1					1			2
犯罪の加害					1								1
帰国留学生ネットワーク	1					1							2
チューター		1					1						2
情報交換関係	4	1	4	5	3	7	7	1	4	7	4	2	49
学業関係	14	4	6	8	5	9	2	1	5	9	3	8	74
入国管理関係		2				1	2			2	1		8
経済問題					3								3
医療関係		1									1		2
生活一般		1		1	1	1	1		1	4	2	1	13
就職・アルバイト	1			2					1				4
トラブル関係	1	1					2						4
国際交流活動	4	5	2	6	7	10	6		3	5	11	10	69
学術交流関係	3	4	3		2	1	2	3	6	5	5	2	36
合計	30	24	15	28	24	30	24	5	20	33	27	23	283

3番目に多かったのは、情報交換関係で、49件だった。次に、学術交流関係の相談は36件を記録した。5番目に多かった相談内容は、生活一般に関するものだった。記録として、13件だった。引き続き、入国管理関係に関する相談は、8件だった。指導教員とのトラブルは7件あった。この種の相談は、対応しにくくて、悩まされる。また、ハラスメントのような相談も6件あった。

就職やアルバイトに関する相談は4件を記録した。また、同じく4件を受けたのは、トラブル関係の相談だった。

それから、件数は少ないが、盗難被害や犯罪の被害、交通事項の相談は1～2件を対応した。

<過去5年間のデータと比較>

参考のため、過去の5年間のデータと比較している数値を提供する。

表4：過去5年間のデータと比較

(件)

相談内容 / 年度	2011	2012	2013	2014	2015
情報交換関係（情報収集・提供、挨拶）	32	18	29	47	49
学業関係（入学、進学、研究、学習、見学）	99	71	98	126	74
入国管理関係（入管、ビザ、在留）	6	2	6	4	8
医療関係	3	7		3	2
生活一般（住居、日常生活、チューター）	24	33	7	28	15
就職・アルバイト関係	2	6	9	1	4
国際交流・サークル活動	65	74	79	57	69
学術交流関係（海外大学協定、帰国留学生ネットワークなど）	21	17	28	42	38
経済問題（奨学金、授業料）	5	2	6	1	3
トラブル関係（人間関係、ミスコミュニケーション、家庭内トラブルなど）	42	45	4	2	4
交通事故			2	10	1
指導教員とのトラブル			1	5	7
名誉棄損			15		
暴力事件			2		
ハラスメント			3		6
盗難被害			1		2
犯罪の加害			1		1
合計	299	275	291	326	283

全学共通科目「Study Abroad」授業の報告

インターナショナルオフィス 正 楽 藍

本学の全学共通科目として、平成25年度から「Study Abroad：Global English at UC/UWA」を開講している。この科目は、グローバル人材に求められる3要素（語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性など、異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ）を養うことを目的として、本学での国内研修と本学の学術交流協定校である西オーストラリア大学での研修を組み合わせたものである。平成27年度は、経済学部生3名と法学部生1名、教育学部生1名の計5名の受講生であった。

協定校での研修期間すべてにわたって、派遣先大学が手配するホストファミリー宅で生活することとなる。平日日中は大学でのネイティブ教員による研修、夕方と週末はホストファミリーと過ごすあって、受講生は文字通り「英語漬け」の5週間を送ることとなった。

最初は、他の様々な国から集まった研修生との授業になじめず、自身の英語力や積極性の足りなさを実感したようである。しかし、次第に授業にも慣れ、ホストファミリーとも打ち解けて、たどたどしく、そして、ゆっくりとした英語ではあるが、何とか自分の意思を相手に伝えることができるようになった。研修期間が終わるころには他の研修生ともすっかり打ち解けて、帰国後もFacebook等で繋がりを持っているようである。

帰国後の受講生は、本学で学ぶ外国人留学生と積極的に交流するようになったり、自由参加の英語による講義へ顔を出すようになったり、より長期の留学へと踏み出したりと、これまで以上にさまざまな国際交流活動に参画している。次年度の受験予定者を対象とするオープンキャンパスで本授業での体験を紹介した受講生もいる。「大学受験まで英語は科目でしかないかも知れない。では、大学入学後は何のために英語を学ぶのか。自分は入学後、英語学習に対する動機が薄れて戸惑った。しかしこの授業の受講で気づいたのは、英語はコミュニケーションの手段、世界中の人びとと繋がれるツール」と発表しているのを聴き、本授業がきっかけとなり、何のために学ぶのか、なぜ学ぶのかをしっかりと考えることができているのではないかと感じた。

全学共通科目「海外体験型異文化コミュニケーション」(タイにおける研修)の実施

インターナショナルオフィス ロンリム・高水 徹

インターナショナルオフィスは、全学共通科目として、「海外体験型異文化コミュニケーション」を提供している。この授業は、本学の海外拠点大学である、タイ北部のチェンマイ大学における異文化体験を通して、国際コミュニケーション力を養うことを目的としている。

平成27年度、本授業の4回目を実施した。受講生は6名で、教育学部から4名、法学部から2名であった。学年別では、2年生が4名で、1年生が2名だった。

(人)

No.	期 間	経済	教育	法	工	農	医	男子	女子	1年生	2年生	合計
1	2012年8月22日 ～9月2日	3	1	1		1		3	3	5	1	6
2	2013年9月1日 ～14日	3	1	1	1			4	2	5	1	6
3	2014年8月24日 ～9月6日		2	4		1	1	4	4	4	4	8
4	2015年8月23日 ～9月5日		4	2				2	4	2	4	6
合 計		6	8	8	1	2	1	13	13	16	10	26

例年のように、4月から7月までの事前学習では、現地での研修に必要な基礎知識や英語による発表の練習、現地における危機管理や注意事項などを学んだ。チェンマイ大学での研修日程は、8月23日から9月5日までであった。前年と違って、今回の受け入れ部署は、チェンマイ大学のインターナショナルカレッジであった。研修期間中、同大学の英語の授業への参加、各種フィールド学習、日系企業見学の他に、英語による各学生の出身地紹介や、チェンマイ大学バディーズとのテーマ別ディスカッションが含まれている（現地研修日程を参照）。

これらの内容は、本学の教室内では学習および体験が難しいものであり、学生にとっては得がたい機会となった。本授業における体験が、より長期の留学につながる流れができつつあり、今後より一層それが強化されることを期待している。



SEE PROGRAM
Study●Explore●Embrace

**KU-CMU SEE Program @ Chiang Mai University, Thailand
August 23 – September 4, 2015**

	Sunday 23 August 2015	Monday 24 August 2015	Tuesday 25 August 2015	Wednesday 26 August 2015	Thursday 27 August 2015	Friday 28 August 2015	Saturday 29 August 2015
1st Week							
Morning	- Arrive Chiang Mai - Check in at Lotus Pang Suan Kaew Hotel - Welcome Party at Lemon Tree Restaurant	- Meeting with the Associate Dean of International College - Thai Culture and Workshop	Class: Thai Language Venue: International College	Class: University Social Responsibility (USR) Venue: International College	Class: Oral Expression Class with Aj. Phatcharakran Intanaga (Aj. Ja)	Class: Best Practice of Social Enterprise in Thailand: Royal Project Venue: International College	Orienteering by Prof. Long Lim Venue: International College
Afternoon	TG623: KIX-BKK TG116: BKK-CNX ETA CNX: 18:30	- Orientation by Vice President for International Relations and Alumni Affairs - Campus Tour	Class: Thai Culture and Etiquette Venue: International College	KU-CMU USR Project at Ban Rom Sai (Banyan Home Foundation) (www.banromsai.jp)			Free time Chiang Mai Zoo Doi Suthep Temple Bhubing Palace
2nd Week							
Morning	Free time	Monday 31 August 2015 Exploring Chiang Mai and Experiencing Thailand: - Bo Sang Handicraft Centre - San Kamphaeng Hot Springs (Royal Initiative Project) - Teen Tok Royal Project Development Center (Royal Project) (http://royalprojectthailand.com/teenitok) ** Stay one night at Teen Tok Royal Project Development Center	Tuesday 1 September 2015	Wednesday 2 September 2015 Visit Factory Industry in Northern Region Industrial Estate (Lamphun) Visit Bee Farm in Sarapee District, Chiang Mai	Thursday 3 September 2015 KU students and CMU buddies prepare for final presentation - Group Presentation by KU-CMU teams - Farewell Party	Friday 4 September 2015 - Program Evaluation - Certificate Ceremony - Check out - Central Airport Plaza - Depart from Chiang Mai TG121: CNX-BKK ETD CNX: 20:50	Saturday 5 September 2015 Arrive Kansai International Airport TG622: BKK-KIX ETD BKK: 23:30 ETA KIX: 07:00
Afternoon	Enjoy Sunday Walking Street with buddies						

CHIANG MAI UNIVERSITY INTERNATIONAL COLLEGE
Tel: +66 5394 2605 Email: ird.cmuic@gmail.com

Note: Class = Lecture in the classroom

「トビタテ！ 留学 JAPAN 日本代表プログラム（地域人材コース）」への参画

インターナショナルオフィス 正 楽 藍

「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！ 留学 JAPAN 日本代表プログラム～」が2014（平成25）年度から開催された。平成26年度からは、高校生コースを除く既存の4コースに加えて、地域人材コースが加わった。香川県は平成26年度末から本コースへの申請準備を開始し、平成27年度前期（第4期）から本プログラムに参画している。

香川県内の企業などからいただいたご寄附と、香川県と高松市、香川大学とが出資する資金にあわせて、独立行政法人日本学生支援機構からの補助金のほぼすべてを、県内の高等教育機関に在籍する日本人学生等の海外留学への奨学金にあてるというものである。

地域人材コースが他の4コースと大きく異なるのは、応募資格を県内企業等への就職を目指す学生にしていることである。大学の国際化、日本社会のグローバル化と同時に、地方創成が叫ばれているなかで、県内の高等教育機関で学んだ学生をいかに地元に着させるか、とりわけ、地方の活性化や、大学等の国際化と地域貢献の観点から、在学時代の海外体験を地元に戻元してもらいたいとの思いがある。

日本学生支援機構からの補助金による本コースの実施は第4期と第5期、第7期までであるが、それ以降も、県内企業及び高等教育機関が連携して同様の事業を継続して展開することとなっている。

香川地域人材育成コース協議会構成団体一覧
(平成 29 年 1 月 27 日現在)



帝國製薬株式会社



株式会社レアスウィート



三和電業グループ



百十四銀行



香川銀行

TOMONY HOLDINGS



しあわせのチカラになりたい。

四国電力株式会社



公益財団法人松平公益会

公益社団法人香川県観光協会

海外語学研修プログラム（韓国語）の報告

インターナショナルオフィス 高水 徹

インターナショナルオフィスが派遣している韓国語研修先は、大邱大学と建国大学の2大学である。大邱大学は学術交流協定校であり、建国大学は、協定関係にはないが、我々留学生センター主催の日本語語学研修プログラムで学生受け入れ実績もあるなど、以前より交流のある大学である。

残念ながら27年度は、いずれの大学に関しても、学生を派遣することができなかった。建国大学の研修は、26年度までは派遣が可能な時期に設定されていたが、プログラム時期および実施方法が変更され、特に前者が本学とは全く合わなくなってしまった。大邱大学に関しても、建国大学ほどではないものの、時期の問題があり、そもそも参加が難しい。

なお、本学が海外へ派遣する学生については、25年度より、本学所定の海外旅行保険（包括契約）への加入を義務付けることとなった。よって、派遣形態が変わっても、英語研修への派遣学生も、韓国語研修への派遣学生も、渡航時期に近い者についてはまとめて加入手続きをし、渡航前の危機管理ガイダンスを受けさせたうえで派遣することとしている。

2015年度留学生センター留学生の受け入れ

インターナショナルオフィス 高水 徹

留学生センターでは、「留学生センター留学生」としていくつかの制度による留学生の受け入れを行っている。

以下に、2015年度に留学生センターで受け入れた留学生について記す。各プログラムの詳細については、別項「日本語教育カリキュラム等の報告」を参照されたい。

1. 文部科学省 研究留学生

文部科学省外国人留学生制度を利用し、本学大学院への入学を希望する留学生のうち、半年間の日本語予備教育を必要とする者を留学生センターで受け入れ、日本語・日本事情の集中的な教育を行っている。2015年度には前期にバングラデシュより男女各1名、計2名の学生を受け入れ、初級の日本語・日本事情教育を行った。この2名は、2015年10月より所属を農学部へ移し、引き続き研究生として大学院進学に備えている。

2. 文部科学省 教員研修留学生

これも文部科学省外国人留学生の一つで、母国で教員をしている学生が、1年半日本の大学で学ぶため留学するものである。1年半のうち最初の半年間日本語教育を受け、その後の1年間、専門分野の研究・教育実践等を行う。2015年度には、受け入れ実績はなかった。

3. 文部科学省 日本語・日本文化研修留学生

1・2同様、文部科学省国費留学生の一つであり、本学留学生センターとしては2014年度後期に初めて2名の受け入れを行った。内訳はメキシコ人男性とポーランド人女性で、いずれも上級レベルの日本語能力を有し、上級の日本語授業や全学共通科目、各学部開設の専門科目等を、各自の関心やスケジュールに合わせて積極的に履修していた。本プログラムの留学期間は1年間であり、上記2名の学生は2015年度前期の修了時まで各自で設定したテーマに基づき日本語でレポート作成を行った。

2015年度後期には、メキシコ人男性1名とミャンマー人女性1名の計2名を受け入れ、以前の学生同様に各種科目を受講した。

4. さぬきプログラム

2014年度より新たに始めたプログラムである。本学の学術交流協定校に所属し、日本語初級レベルで日本留学を希望する学生を、特別聴講学生として留学生センターで受け入れ、初級日本語・日本事情の教育を行う、1学期間（半年間）のプログラムである。本プログラムの新設により、これまで日本語能力の関係で留学したくてもできなかった学生の受け入れが可能となり、本学の留学生増、キャンパスの国際化に貢献できる。また、上記1・2の初級学生と合同で授業が実施できるため、教育効果や留学生同士の交流促進も期待できる。

2015年度には、前期にブルネイ・ダルサラーム大学より3名、後期にブルネイ・ダルサラーム

大学より2名、チェンマイ大学より1名をそれぞれ本プログラム2期生、3期生として受け入れた。

5. その他

上記1～4に加えて、大邱大学（韓国）の人文学部日本語日本学科との覚え書き取り交わしによる、科目等履修生としての1学期間（半年間）の受け入れプログラムもあるが、2015年度は同大からの留学希望者がいなかったため、同プログラムでの受け入れ実績はなかった。

また、2015年度前期には、2014年度後期にさぬきプログラムを修了したブルネイ・ダルサラーム大学の学生が、「ディスカバー香川」の学生として1学期間のプログラムに参加し、修了した。本プログラムは、主としてブルネイ・ダルサラーム大学のCommunity Outreach Programに対応するために設置されたプログラムで、対象はさぬきプログラムの修了者である。県内の地域社会において、1学期間何らかの貢献を行い、本学の指導のもと、同大学に報告し、同時に、日本語や日本文化のさらなる学習も行うというものである。本プログラムは試行的に実施したものであるが、ブルネイ・ダルサラーム大学の要件と本学の提供可能な内容が必ずしも一致していないため、今後の継続は困難であると考えられる。

各部局主催の短期受入プログラムにおける日本語授業の報告

インターナショナルオフィス 塩井実香

2011年度より、JASSOによる助成を受け、短期で海外から学生を受け入れる「Short Stay プログラム (SS プログラム)」と、短期で本学学生が海外研修に行く「Short Visit プログラム (SV プログラム)」が全国的に実施されるようになった。本学でも、複数のプログラムが採択され、担当部局主導で実施されている。

本報告では、インターナショナルオフィスが2011年度より授業協力を行っている農学部におけるSSプログラムと、2012年度より授業協力を行っている教育学部のSSプログラム(当初はJASSO SSプログラムではなかった)について記す。

以下、日程順に両プログラムについて述べたい。

1. 教育学部「アジア・アメリカ異文化交流短期受入プログラム 2015」

教育学部が主管となって大学間協定を締結しているアメリカのコロラド州立大学より、2015年6月1日(月)から7月3日(金)までの5週間、同大で日本語を学習中の学生7名が来日し、教育学部で研修を行った。いわゆる日本語の授業、日本事情的な授業、教育学部開設科目への参加、各種見学・体験等で構成されているプログラムの中で、インターナショナルオフィスからも高水・塩井が日本語授業担当として協力した。これは、教育学部長からインターナショナルオフィス長への依頼という形を経て学内非常勤講師として受けたものであり、同大参加学生には単位が付与されることから、本学(教育学部)所定の書式によりシラバスも作成して、実施に備えた。

学生7名は、日本語学習歴や日本語能力により初級5名と中級2名に分け、前者を高水担当の「国際交流基礎演習Ⅰ」、後者を塩井担当の「同Ⅱ」授業の受講生とした。ただ、学生のレベル、授業科目設定、成績提出の都合等、便宜上このように履修者を分けたが、授業運営の都合や学習効率、担当教員の負担軽減等を考慮し、実際の授業は7名合同で高水・塩井が交代で担当する形で実施した。

授業では、日本語による自己紹介のほか、身近なテーマについて話したり、レベルに応じた教材を用いたりして、読む・書く・聞く・話すの4技能を学ぶものとした。その際には、極力学生のニーズに応えるべく、何を学びたいかを聞いたうえで、それにならった教材や授業内容とするよう配慮した。また、今年度は、プログラム期間中に地元FM局のラジオ番組(生放送)に7名が交代でゲスト出演することとなったため、学生の番組出演が授業と重なる日には、放送時間に教師と残りの学生と一緒に番組を聴くこともした。

なお、前年度は、日本語による最終成果発表(PowerPointを用いたプレゼンテーション)の準備・指導も本授業内で行ったが、これは本プログラムの趣旨や本授業の目的等から考えて適切ではないため、今年度は同大の引率教員(日本語教員)が担う形に変更した。

最終発表や修了式には我々インターナショナルオフィス教員は参加できなかったのだが、後日、

修了式を終えた学生たちからお礼の寄せ書きカードが届いた。日本語で一生懸命書かれた感想やお礼からは、本授業を楽しんで受講してもらえたことが伝わり、嬉しい締めくくりとなった。

2. 農学部「東南アジアなどの食品安全機能解析教育に関する大学間相互交流プログラム (Educational Program for students from South East Asia and Pacific Rim on Food Safety and Nutraceutical Science at Faculty of Agriculture, Kagawa University)」

農学部では、「日本の食の安全」留学生特別プログラムという修士課程のコースがあることもあり、2011年度より食品安全実践教育を目指すSSプログラムが、夏季休業中を利用して行われている。このプログラムには、将来的に本学修士課程に入学する学生が出てくるとも期待して、日本語・日本文化を学ぶ時間も組み込まれており、インターナショナルオフィスの高水・塩井が日本語授業を担当している。こちらも、前述の教育学部のプログラム同様、農学部長からインターナショナルオフィス長宛の依頼文を受けて協力しているものである。

2015年度は、8月17日(月)から9月18日(金)までの約1ヶ月間のプログラム中、5回の日本語授業が行われた。カンボジア・中国・インドネシア・フィリピン・タイ・ベトナム・ブラジル・アメリカ・トルコ・メキシコの10ヶ国から計28名の学生が渡日し、文字・挨拶・簡単な会話といった日本語の基礎を学び、1回分(時間数で言えば2コマ分)の授業を使って、実際に学外へ出て学んだ日本語を使う買い物体験も行った。例年どおり、事前課題としてインターネット上の学習サイトや我々が準備したひらがな・カタカナ・挨拶表現の教材の予習を課し、予習を前提とした授業運営を行った。買い物体験は、台風接近に伴う急な日程変更もあったが、結果的には滞りなく行うことができた。

参加国数・参加者数とも年々増加してきており、今年度はいずれもこれまでで最多であった。今年度は、本プログラムと高水の海外出張(2週間)が重なり、塩井1人で多人数を相手に教える回が多くなったため、少々大変ではあったが、例年どおり農学研究科在籍中の日本語学習歴のある留学生にサポーターとして授業・買い物体験に協力してもらうことができ、また、参加者28名のうち日本語上級者1名にもサポート役を務めてもらったことで、教師の負担はかなり軽減された。

2013年度よりプログラム修了時に成績(正課で行われているような「S、A、B、C、X(秀、優、良、可、不可)」ではなく、「Pass、X(合、否)」の2種のみ)を出すこととなり、2015年度も成績評価を行った。評価は、日頃の授業態度、学外での買い物実践に関する日本語レポート、全授業終了後のレポート課題などを総合的に考慮して行った。最終レポートは、「プログラム期間中誰と日本語でコミュニケーションをしたか」「それはうまくいったか」「うまくいかない時はどのような手段をとったか」という振り返りの内容とし、英語での記述を求めた。これは、塩井・高水および農学部ルーツ教員による共同研究にもデータとして使用することを前提とし、使用の是非について承諾を得ることも併せて行った。使用を不可と回答した少数の学生も含めてほぼ全員が、日本語学習や学習した日本語の使用について肯定的な評価をしており、本プログラムにおける日本語教育としては一定の成果があったことが窺えた。また、実際にその後の修士課程入試において本プログラム参加者3名が出願し合格したのも、成果の一つと言えよう。

留学生対象各種進学説明会

インターナショナルオフィス 高水 徹

国内においては、平成 27 年 6 月から 8 月にかけて、日本語学校の留学生や教員を対象とした説明会に計 8 回参加した（末尾の表を参照）。会場は高松、岡山、大阪である。これらの説明会には、JASSO 主催のもの、民間の機関主催のもの、日本語学校主催のものが含まれる。近年は特に岡山での広報活動を重点的に行っているが、その理由は、毎年岡山の日本語学校から本学に進学する留学生が多く、地理的条件を考えれば、今後も多くの留学生の入学が見込めるからである。

実際に岡山の会場では、他の開催地と同様の説明を行い、一見類似した質問を受けた場合でも、他の会場よりも詳細な内容であり、より真剣かつ具体的に本学への進学を検討している様子が伝わってきた。一方で、岡山会場においては、生活環境に関する質問などはあまり出てこない。これは、本学との地理的な近さを考えれば、学生にとって質問の必要がないからであると考えられる。

今年度も、高松において説明会が実施された。穴吹ビジネスカレッジの学生が中心ではあるが、他の日本語学校等所属の学生も参加可能な説明会である。穴吹ビジネスカレッジは、本学から最も近い県内の日本語学校であり、以前から同校より本学へ多数の留学生が進学している。他の会場とは異なり、地理的なことや交通機関に関する質問などはなく、その分試験制度に質問が集中していた。一方で、専門分野や試験科目など条件が合わないという理由で、同校からの本学への進学を現状以上に増やすことは、必ずしも容易ではない。

国外においては、今年度も海外における JASSO 主催の日本留学フェアに参加した。平成 27 年 10 月 31 日(土)、11 月 1 日(日)に、ベトナムのハノイ、ホーチミン会場にて、ブースを設置して広報活動を行った。特にハノイ会場では、本学ブースに 50 名以上の留学希望者が訪れ、会場には非常に熱気があった。

同 1 日のホーチミン会場のフェア終了後、ドンズー日本語学校を訪問することができた。同校においては、日本の大学関係者との意見交換会が実施され、他大学におけるベトナム人留学生の様子や、同校の今後の方向性、同校から日本の大学への要望等、かなり踏み込んだ内容も取り上げられた。また、他大学においては、同校と連携して特別なプログラムを実施している例がいくつか見られた。

さらに、同 2 日(月)には、日本留学希望学生のみが寄宿・学習している、同校の留学生センターにて説明会が実施され、本学も参加することができた。今回は本学留学生で、同校卒業生であるブイクォク フィーを帯同していたため、日本や本学での留学生活について説明してもらった。

現状では、日本の大学への留学希望者がベトナムにおいて日本語学校に通っていたとしても、高等教育機関への進学に必要な語学力を習得するため、日本の日本語学校でさらに学習する必要がある場合がほとんどであり、同校の学生も基本的にはそのようにしている。実際に、日本語学校の学生が本学ブースに来た場合でも、通訳抜きで日本語で話せる学生は少なかった。本学が参加した日本国内での説明会の一部は、ドンズー日本語学校からの留学生を受け入れている日本語学校の学生が多く参加するものである。

ベトナム全体として日本への留学が増加中であり、当分の傾向は続くと考えられるため、同国から本学への留学生も徐々に増加することが見込まれるだろう。

開催日	開催地
6月1日(月)	岡山
6月27日(土)	大阪
7月8日(水)	岡山
7月9日(木)	高松
7月17日(金)	大阪
7月18日(土)	大阪
7月22日(水)	岡山
8月20日(木)	大阪
10月31日(土)	ベトナム (ハノイ)
11月1日(日)	ベトナム (ホーチミン)

課外教育行事

インターナショナルオフィス 高水 徹

平成 27 年度も、2 回の課外教育行事を実施した。この行事は、留学生や日本人学生が、香川県の伝統文化等への理解を深めること、および、学生間の交流の場を提供することを目的としたものである。

第 1 回

平成 27 年 5 月 30 日(土)、第 1 回課外教育行事を実施した。外国人留学生 65 名、日本人学生(チューター) 4 名が参加した。

午前中には日本三大溪谷美の一つである寒霞溪で日本の自然を、午後からはマルキン醤油記念館にて醤油造りの歴史や製造方法などを学んだ。特に有形登録文化財に指定された合掌造りの建物は留学生にとって一つの見どころであった。続いて訪れたオリーブ公園では約 100 年にわたる日本のオリーブの歴史について学習ができた。

最後に多くの映画などのロケーションとしても有名なエンジェルロードを訪ね、香川県と小豆島の観光業等についても考えることができ、有意義な学習の場になった。

第 2 回

平成 27 年 11 月 28 日(土)、今年度 2 回目の課外教育行事を実施した。今回は、香南アグリームにおける柿の収穫体験およびお菓子作りという内容であった。

実は、収穫体験は柿以外にもう 1 種類予定されていた。しかし、発育状況が思わしくなかったため、残念ながら柿のみとなってしまったが、学生たちは楽しくかごに入れていました。その後、指導を受けながら柿入りのカップケーキを焼いた。本来は翌日のほうがおいしいそうであるが、皆すぐに食べてしまった。留学生たちは日本の季節の楽しみを体験できたことと思う。

交流活動および地域住民との連携の報告

インターナショナルオフィス ロン リム

インターナショナルオフィスにおける国際交流活動を報告する。平成 27 年度に、国際交流活動は 47 回実施した。参加者の延べ人数は、1127 名で（表 1 参照）、そのうち、留学生は 759 名で、日本人学生は 368 名だった。ほとんどの事業は、インターナショナルオフィスが主催する、または共催するものであった。その他、地元の国際交流団体の主催するイベントもあった。交流活動を下記のように分類することができると思う。

- (1) 留学生同士の交流または、留学生と日本人学生との交流
- (2) 留学生と地元住民との交流
- (3) 留学生と小中学校の生徒との交流
- (4) 企業の関係者との交流、就職関連
- (5) 海外の来客との交流活動

- (1) 留学生同士の交流または、留学生と日本人学生との交流

このタイプの交流は、一番多く実施した事業であった。全体の 47 回の中、このタイプは 28 回を記録した。主な例としては、コーヒータイム、ランチプレゼンテーション会と夏の日帰り旅行であった。コーヒータイムやランチプレゼンテーション会は、祭日以外、毎週の月曜日に実施している。他のイベントは、単発的に行われている。このタイプの交流を推進する理由は、学生同士の連携を促すためである。同年層の知り合いがいれば、留学生たちはいち早く日本での生活になじんでくると我々は期待している。日本の生活になじんでくると共に、日常生活の困難は軽減できるのではないかとと思われる。

- (2) 留学生と地元住民との交流

地元住民との連携は同じく大事である。平成 27 年度に、実施した回数は 14 回だった。一般の方々とのコミュニケーションを取らせるため、大学構内に限らず、町内防災訓練やホームビジット、料理を通して町民とのやりとり（例えば、流しそうめん大会、世界食文化、紅葉狩り・うどん作り体験講習会）を計画して実施した。

- (3) 留学生と小中学校の生徒との交流

地元住民の他、近隣の小中学校の生徒たちとの交流イベントも毎年、実施している。本学の附属小学校や、留学生寮の近辺にある小中学校や県内の小中学校へ訪問したりして、小中学生たちとの交流会を年に数回実施した。

- (4) 企業の関係者との交流、就職関連

昨今、卒業後、留学生が日本企業で就職することは珍しくなくなっている。その就職支援の事業として、今回も企業の方々との交流会や見学会を実施している。実際に会社で務めている社会人を

招待して、就職に関心を持つ留学生と直接語り合って、情報交換を行う。

(5) 海外の来客との交流活動

数少ないが、海外からの来客は本学を訪問しに来る。この度、ブルネイからの団体が訪ねて来た。本学の留学生と日本人学生の協力を得て、来客の学生たちとの交流を企画して、対応した。

表 1：平成 27 年度 留学生における交流事業

	開催日		事業名	留学生	日本人学生	合計
1	4月5日	日	新入留学生を囲んでの情報交換会	63	60	113
2	4月13日	月	コーヒータイム 1	25	28	53
3	4月27日	月	コーヒータイム 2	18	8	26
4	5月11日	月	ランチプレゼンテーション会 1	13	14	27
5	5月18日	月	コーヒータイム 3	12	11	23
6	5月25日	月	ランチプレゼンテーション会 2	13	6	19
7	5月26日	火	チェンマイ大学看護学科学生との交流会	1	3	4
8	5月30日	土	課外教育行事（小豆島日帰り）	65	4	69
9	6月1日	月	コーヒータイム 4	14	10	24
10	6月8日	月	ランチプレゼンテーション会 3	6	9	15
11	6月15日	月	コーヒータイム 5	6	3	9
12	6月21日	日	屋島東小学校児童との交流会	3		3
13	6月22日	月	附属高松小学校（5年生）との交流会	7		7
14	6月22日	月	ランチプレゼンテーション会 4	6	8	14
15	6月27日	土	地域住民と交流（流しそうめん）・花園寮	10		10
16	6月29日	月	コーヒータイム 6	10	4	14
17	7月4日	土	ホームビジット第1期1日目	8		8
18	7月6日	月	ランチプレゼンテーション会 5	8	7	15
19	7月11日	土	地域住民と交流（流しそうめん）・留学生会館	12	1	13
20	7月11日	土	ホームビジット第1期2日目	10		10
21	7月12日	日	男木島日帰り旅行	51	16	67
22	7月13日	月	コーヒータイム 7	6	6	12
23	9月5日	土	高松高校文化祭ボランティア	3		3
24	9月6日	日	高松高校文化祭ボランティア	4		4
25	9月26日	土	世界食文化	8		8
26	10月3日	土	新入留学生を囲んでの情報交換会	41	35	76
27	10月5日	月	コーヒータイム 8	4	8	12
28	10月19日	月	ランチプレゼンテーション会 6	7	7	14
29	11月9日	月	コーヒータイム 9	7	6	13
30	11月15日	日	紅葉狩り、うどん作り	9		9
31	11月20日	金	留学生と人事採用担当者の交流会 1	22		22
32	11月22日	日	ICES・KUFSA デイ	26	4	30
33	11月28日	土	課外教育行事（香南アグリーム）	16	4	20
34	11月30日	月	ランチプレゼンテーション会 7	4	5	9
35	12月2日	水	留学 Roundtable	6	13	19
36	12月5日	土	ホームビジット第2期1日目	9		9
37	12月7日	月	ランチプレゼンテーション会 8	7	8	15
38	12月8日	火	平成 27 年度 香川大学外国人留学生交歓会	141	39	180
39	12月10日	木	留学生と人事採用担当者の交流会 2	16		16

	開催日		事業名	留学生	日本人学生	合計
40	12月12日	土	ホームビジット第2期2日目	15		15
41	12月14日	月	コーヒータイム 10	5	4	9
42	12月16日	水	ホームビジット報告会	11		11
43	12月21日	月	ランチプレゼンテーション会 9	6	7	13
44	1月18日	月	ランチプレゼンテーション会 10	7	7	14
45	1月27日	水	第12回外国人留学生作文コンテスト表彰式 および留学生等による活動報告会	14		14
46	2月1日	月	コーヒータイム 11	4	8	12
47	3月23日	水	ブルネイ・ダルサラーム国青年との交流会 (JENESYS2.0)		15	15
合 計				759	368	1127

就職支援プログラム

インターナショナルオフィス 高水 徹

平成 27 年度の本学における留学生を対象とした就職支援の多くは、日本学生支援機構による「公益財団法人 中島記念国際交流財団助成」の資金を得て実施した。本学が事務局を務める香川県留学生等国際交流連絡協議会による就職支援が、国際交流の事業として採択されたことになる。

全学的な学生の就職支援はキャリア支援センターが担当しているが、インターナショナルオフィスも、留学生を対象とした就職支援を行っている。これらの活動により、日本での就職を希望する本学留学生と企業がよりよい形でマッチングされていくことを願っている。

百十四銀行就職セミナー

平成 27 年 6 月 17 日(水)、百十四銀行研修会館にて、百十四銀行就職セミナーが実施された。本セミナーは、本学が実施したものではないが、香川県留学生等国際交流連絡協議会の事務局が設置されている本学が、百十四銀行にご提案をいただいたことにより実現したもので、今回が 2 回目となる。本学から 11 名、高松大学から 4 名の留学生が参加した。

人事部より「会社の歴史・事業内容」、市場国際部より「会社の国際業務について」というお話を伺うことができ、続く質疑応答では、留学生も積極的に質問していた。加えて今回は、就職した先輩留学生のお話を伺うこともできた。セミナー後半では懇親会の時間も設けられ、充実した交流の機会となった。このように企業側からお申し出いただくことは本学にはあまりないケースであり、貴重なセミナーとなっている。

留学生就職活動準備セミナー

平成 27 年 10 月 30 日(金)、留学生就職活動準備セミナーを実施した。就職活動の準備段階と位置づけられる本セミナーでは、県内で就職した先輩元留学生による就活体験談（大川自動車株式会社 李曉^{ニウ}氏）、接客マナーや食事マナーを実践する日本文化基礎講座（教育学部 加藤みゆき教授）、日本における就職活動について（マイナビ担当者）の 3 つの内容を学ぶことができた。

留学生採用支援セミナーおよび留学生活用セミナー

平成 27 年 11 月 20 日(金)、留学生採用支援セミナーを、12 月 10 日(木)に留学生活用セミナーを実施した。いずれも、企業の皆様方に本学を含む留学生をご理解いただき、採用へ向けた第一歩としていただくことを意図したもので、前者では本学キャリア相談員の神崎 優が、後者では大川自動車株式会社の田尾 勝氏が講演を行い、その後留学生と企業の人事担当者との交流会が行われた。

企業見学会

平成 28 年 1 月 15 日(金)、日プラ株式会社本社・本社工場を訪問し、企業見学会を実施した。工場内を説明を受けながら見学した後、連絡役もして下さった平木 拓氏や本学卒業生の王珊氏のみならず、専務取締役敷山靖洋氏にも様々な質問に応じていただいた。

近年では機密保持や品質管理のため、生産の現場を見せていただく機会は必ずしも得やすいわけ

ではない。にもかかわらず、このように生産の過程を見学しながら解説していただき、またその後の質疑応答でもサンプルや数字を含め、詳細な情報を提供していただいた。非常にありがたいことである。

香川大学インターナショナルオフィス規則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人香川大学組織規則第18条の2の規定に基づき、香川大学インターナショナルオフィス（以下「オフィス」という。）に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 オフィスは、香川大学（以下「本学」という。）の国際交流の窓口機関として、情報収集及び発信を一元化すると共に、国際戦略の構築並びに教育研究等の国際的な連携、学内の各組織の有機的な連携、地域の国際交流・協力活動との連携を推進することで、本学並びに地域の国際交流の推進に資することを目的とする。

(構成)

第3条 オフィスは前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる組織を置く。

- (1) 国際研究支援センター
- (2) 留学生センター

2 前項の組織に関し必要な事項は別に定める。

(業務)

第4条 オフィスはオフィスを構成する組織の相互の連携協力を図ると共に、次に掲げる業務を行う。

- (1) 本学の国際化基本方針に基づき、国際交流に係る企画及び立案に関すること。
- (2) 国際交流協定の締結、その他の外国の機関との交流に関すること。
- (3) 国際交流活動に係る情報を収集・分析し、国際交流の推進に必要となる情報を学内外へ提供し、国際的な情報発信の強化に関すること。
- (4) 国際交流推進事業展開のための外部資金獲得に関すること。
- (5) 地域における国際交流の支援に関すること。
- (6) 国際交流に係る危機管理に関すること。
- (7) その他オフィスの管理・運営並びに本学の国際交流推進に関し必要な業務に関すること。

(組織)

第5条 オフィスは、次の各号に掲げる者で組織する。

- (1) オフィス長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員

2 オフィスに副オフィス長を置くことができる。

3 オフィスに、部局に所属しオフィスの業務を兼任する教員（以下「兼任の教員」という。）を置くことができる。

(オフィス長)

第6条 オフィス長の任命は、本学理事及び職員の中から学長が指名する理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）の推薦に基づき、学長が行う。

- 2 オフィス長は、オフィスの業務を掌理する。
- 3 オフィス長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、オフィス長を任命する学長の任期の末日以前とする。
- 4 前項の規定にかかわらず、オフィス長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(オフィス長の選考時期)

第7条 オフィス長の選考は、次の各号の1に該当する場合に行う。

- (1) 任期が満了するとき。
- (2) 辞任を申し出たとき。
- (3) 欠員となったとき。
- 2 オフィス長の選考は、前項第1号の場合には任期満了の1月以前に、同項第2号又は第3号の場合には速やかに、行うものとする。

(副オフィス長)

第8条 副オフィス長の任命は、本学教職員の中から担当理事又は副学長の申し出に基づき、学長が行う。

- 2 前項の申し出はオフィス長が副オフィス長候補者を担当理事又は副学長に推薦することにより行う。
- 3 副オフィス長はオフィス長の業務を補佐する。
- 4 副オフィス長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副オフィス長を任命する学長の任期の末日以前とする。
- 5 前項の規定にかかわらず、副オフィス長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第9条 専任教員の選考に関し必要な事項は別に定める。

(兼任の教員)

第10条 兼任の教員は、本学専任教員で国際交流の推進に関し専門的知識及び経験を有する者のうち、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が委嘱する。

- 2 兼任の教員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、兼任の教員を指名する学長の任期の末日以前とする。
- 3 前項の規定にかかわらず、兼任の教員が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第11条 オフィスに、オフィスの重要事項を審議するため、香川大学インターナショナルオフィス会議（以下「オフィス会議」という。）を置く。ただし、オフィス会議の議決事項については、担当理事の承諾を経て決定されるものとする。

2 オフィス会議に関し必要な事項は担当理事が別に定める。

(事務)

第12条 オフィスの事務は、部局の協力を得て国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第13条 この規則に定めるもののほか、オフィスの業務に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成21年10月1日）

1 この規則は、平成21年10月1日から施行する。

2 第11条の担当理事は、当分の間、担当副学長と読み替えて適用する。

附 則（平成23年5月1日）

この規則は、平成23年5月1日から施行する。

香川大学インターナショナルオフィス会議規程

(趣旨)

第1条 この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という。）第11条に規定する香川大学インターナショナルオフィス会議（以下「オフィス会議」という。）に関し必要な事項を定める。

(組織)

第2条 オフィス会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) オフィス長
- (2) オフィス規則第5条第2項に定める副オフィス長
- (3) オフィス規則第3条第1項に定める組織の長
- (4) 専任教員
- (5) オフィス規則第5条第3項に定める兼任の教員
- (6) 教育・学生支援部長
- (7) 学術部長
- (8) 国際グループリーダー
- (9) その他オフィス長が必要と認めた者

2 前項第9号の委員は、学長が任命する。

(審議事項)

第3条 オフィス会議は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 本学の国際化基本方針に基づく国際戦略の企画・推進に関する事項
- (2) 規則その他の制定又は改廃に関する事項
- (3) 組織の設置又は廃止に関する事項
- (4) 教員の選考に関する事項
- (5) 予算及び施設・設備に関する事項
- (6) 評価に関する事項
- (7) その他オフィス長が必要と認める事項

(会議の主宰及び議長)

第4条 オフィス会議に議長を置き、オフィス長をもって充てる。ただし、オフィス長に事故あるときは、あらかじめオフィス長の指名した者がその職務を代行する。

2 議長は、オフィス会議を主宰する。

3 オフィス会議は、議長の招集により開催するものとする。

(会議の議事運営)

第5条 オフィス会議は、構成員の過半数の出席がなければ、議事を開くことができない。

2 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

- 3 第3条第1項第4号及び第6号の議事については、第2条第1項第9号の委員は可否の数にかかわることができない。
- 4 第2項にかかわらず、特別の必要があるとオフィス会議が認めるときは、第2項に定める要件以外の定めをすることができる。

(構成員以外の者の出席)

第6条 議長は、必要があるときは、オフィス会議の承認を得て、構成員以外の者を会議に出席させることができる。ただし、この者は、可否の数に加わることができない。

(事務)

第7条 オフィス会議の事務は、国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、オフィス会議の議事及び運営の方法について必要な事項は、オフィス会議が別に定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年10月1日)

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

香川大学国際研究支援センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という。）第3条第2項の規定に基づき、香川大学国際研究支援センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、香川大学（以下「本学」という。）における国際的な研究交流の支援及び本学の国際化基本方針に基づく国際戦略の実施について中心的な役割を果たすことにより、本学における国際的な学術交流の推進に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 特色ある国際共同研究及び国際展開プロジェクトの企画・開発及び推進に関すること。
- (2) 海外の研究機関との交流に関すること。
- (3) 海外学術ネットワークの強化に関すること及び海外の学術動向に関する調査に関すること。
- (4) 海外教育研究拠点校との学術交流の支援に関すること。
- (5) 各部局が実施する学術交流の支援に関すること。
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な業務。

(職員)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター担当教員
- (3) その他必要な職員

2 センターに、副センター長を置くことができる。

(センター長)

第5条 センター長の任命は、本学職員の中からインターナショナルオフィス長（以下「オフィス長」という。）が学長が指名した理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

4 前項の規定にかかわらず、センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第6条 副センター長の任命は、オフィス長が担当理事又は副学長に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 前項の申出は、センター長とオフィス長の協議により行う。

3 副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を整理する。

4 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

5 前項の規定にかかわらず、副センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター担当教員)

第7条 センター担当教員の任命は、センター長の推薦に基づき、担当理事又は副学長の下承を得てオフィス長が行う。

(事務)

第8条 センターに関する事務は、国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年10月1日)

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

附 則 (平成23年5月1日)

この規程は、平成23年5月1日から施行する。

香川大学留学生センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という。）第3条第2項の規定に基づき、香川大学留学生センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、外国人留学生（以下「留学生」という。）及び海外留学を希望する香川大学（以下「本学」という。）の学生に、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 留学生の受入に関すること。
- (2) 留学生に対する日本語等の教育に関すること。
- (3) 留学生に対する修学上及び生活上の指導助言等に関すること。
- (4) 留学生に係る奨学に関すること。
- (5) 留学終了者に対するフォローアップに関すること。
- (6) 学生の海外留学に関すること。
- (7) 地域における留学生交流に関すること。
- (8) 留学生教育等に係る調査研究に関すること。
- (9) 留学生会館の管理・運営並びに入退居に関すること。
- (10) その他センターの管理・運営並びに学生の国際交流に関すること。

(職員)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター担当教員
- (3) その他必要な職員

2 センターに、副センター長を置くことができる。

(センター長)

第5条 センター長の任命は、本学専任教授の中からインターナショナルオフィス長（以下「オフィス長」という。）が学長が指名した理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

4 前項の規定にかかわらず、センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第6条 副センター長の任命は、オフィス長が担当理事又は副学長に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 前項の申出は、センター長とオフィス長の協議により行う。

3 副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を整理する。

4 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

5 前項の規定にかかわらず、副センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター担当教員)

第7条 センター担当教員の任命は、センター長の推薦に基づき、担当理事又は副学長の了承を得てオフィス長が行う。

(事務)

第8条 センターに関する事務は、国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年10月1日)

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

インターナショナルオフィス教職員一覧

2015. 10. 1

教員 ※ (兼) は兼任を示す
《インターナショナルオフィス》

(兼) オフィス長 / 徳田 雅明

(兼) 副オフィス長 / 教授 / ロン リム

客員教授 / 熊谷 信広

講師 / 細田 尚美

講師 / 高水 徹

講師 / 塩井 実香

講師 / 正楽 藍

非常勤教員 / 金 錫換

非常勤教員 / デイビス, エリック・ジェームズ

非常勤教員 / モストファ・ルビ

非常勤教員 / マリン・ジェイソン

非常勤教員 / セイル・ウィリアム・チェト

(兼) 教授 / 寺尾 徹 (教育学部)

(兼) 教授 / ラナデ R. R. (経済学部)

(兼) 教授 / 和田 健司 (医学部)

(兼) 教授 / 神野 正彦 (工学部)

(兼) 教授 / 川村 理 (農学部)

(兼) 准教授 / 佐川友佳子 (法学部)

(兼) 教授 / 佐藤 勝典
(地域マネジメント研究科)

〈留学生センター〉

(兼) 留学生センター長 / ロン リム

非常勤講師 / 秋田 節子

非常勤講師 / 早川 理代

非常勤講師 / 和田 方子

非常勤講師 / 児島 由佳

事務職員
《国際グループ》

リーダー / 中野 宏栄
担当 総括

サブリーダー / 笹嶋 孝司
インターナショナルオフィス業務

チーフ / 上田 幸司
国際交流業務

チーフ / 浅野 文恵
留学生業務

チーフ / 池田紗和子
留学生業務

グループ員 / 下山 尚子
国際交流業務

グループ員 / 溝渕 雅子
国際交流業務

グループ員 / 松田 晴海
留学生業務

グループ員 / 熊野 彩香
留学生業務

《インターナショナルオフィス》

グループ員 / 多田 利子
留学生会館業務

グループ員 / 土屋 麻美
花園寮業務

香川大学インターナショナルオフィス年報 第7号(2015年度)

発行 平成29年3月31日

発行者 香川大学インターナショナルオフィス

〒760-8521 香川県高松市幸町1-1

TEL：087-832-1194

FAX：087-832-1192

印刷所 牟禮印刷株式会社

TEL：087-822-2600(代)

FAX：087-822-0567, 826-1448

